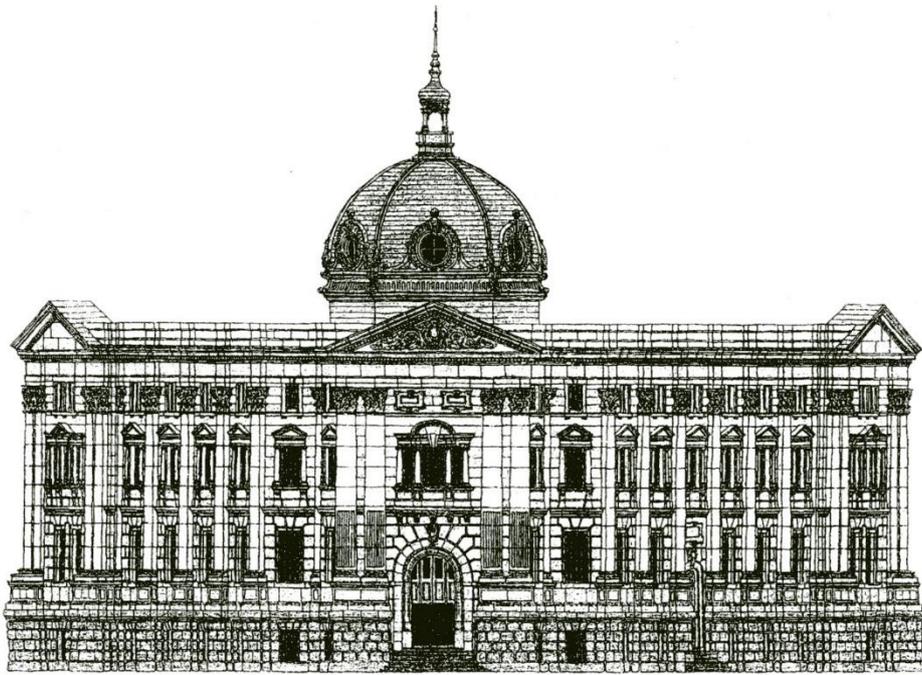


神奈川県立歴史博物館年報

平成29年度



神奈川県立歴史博物館

はじめに

当館は平成28年6月より空調設備等改修工事で休館しており、平成29年度は、年間を通して展示の観覧や施設の利用ができませんでした。

こうした状況の下、移転先の事務室において、皆様にながわの文化や歴史について理解を深めていただくため、当館学芸員等による「県博講座」をはじめとする講座や講演会、体験教室等の講座を開催しました。

休館中の学校連携の一環として、学芸員が小・中・高等学校、特別支援学校に出かけ、児童・生徒に対して講義を行う「出張講座」を開催しました。

また、平成29年が当館の前身である神奈川県立博物館の開館から50年経ったことから、これを記念するとともに当館の魅力をアピールし再開館の期待を高めることを目的に、記念映像の制作、思い出募集、記念誌の発行等を年間通して実施しました。

さらに、休館中に当館資料を保管していただいている博物館においては、当館資料を活用した展示を開催しました。鎌倉国宝館では、通年で平常展示を、横浜市歴史博物館では、企画展「ハマっ子、三浦半島をゆく」、「丹波コレクションの世界Ⅱ 歴史×妖×芳年」及び「横浜に稲作がやってきた!？」を、県立金沢文庫では、特別展「横浜の元祖 寶生寺」及び「唐物 一中世鎌倉文化を彩る海の恩恵」をそれぞれ開催しました。展示の際、準備をはじめ講演会講師を学芸員が務める等、連携・協力しました。

博物館事業の充実を図るため、展示テーマごとに複数の専門分野にまたがって行う総合研究や、学芸員それぞれの専門分野ごとに研究テーマを設定し、各種調査及び研究も引き続き着実に進めました。その研究成果は、再開館後の常設展や特別展等に反映させるほか、研究報告書「神奈川県立博物館研究報告—人文科学—」として発行・発表しました。

さらに、再開館後に再び展示解説等についてご協力いただくボランティアの方々へのフォローアップ研修も行いました。

平成29年12月の空調設備等改修工事完了後は、平成30年4月28日の再開館に向けて、事務室等の館への復帰、収蔵資料や図書資料等の移転、常設展示室の復旧及び特別展の準備を着実に進めました。

今後もより一層、皆さまの期待に応えられるよう、館の職員一同心努めてまいります。

神奈川県立歴史博物館

目次

はじめに

目次

1 沿革・理念

- (1) 沿革…………… 3
- (2) 神奈川県立歴史博物館の理念…………… 4

2 管理運営

- (1) 組織…………… 5
 - ア 組織及び分掌
 - イ 職員名簿
- (2) 歳入・歳出…………… 6
 - ア 歳入
 - イ 歳出
- (3) 入館者状況…………… 6
- (4) 広報・広聴…………… 6
 - ア 広報実績
- (5) 施設概要…………… 6
 - ア 概要
 - イ 館内施設
 - ウ 外部協力
 - エ 平面図

3 調査・研究

- (1) 館独自の研究事業費によるもの… 10
 - ア 総合研究
 - イ 個別研究
 - ウ グループ研究
 - エ 調査研究成果報告会
- (2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの…………… 10
- (3) その他外部研究資金によるもの… 12
- (4) 個人研究活動…………… 12
 - ア 研究報告書
 - イ 個人研究活動

4 資料収集・修理・保管・利用

- (1) 考古資料…………… 24
- (2) 歴史資料…………… 24
- (3) 美術資料…………… 26
- (4) 民俗資料…………… 28
- (5) 写真資料…………… 29

- (6) 資料の燻蒸等…………… 29
- (7) その他の資料…………… 29

- ア 図書
- イ 写真
- ウ 情報システム

5 展示・教育普及・学習支援

- (1) 常設展……………33
- (2) 特別展……………33
- (3) その他の展示……………33
- (4) 神奈川県博開館 50 周年記念プロジェクト…………… 38
- (5) 教育普及・学習支援事業……………39
 - ア 講座
 - イ 子ども・青少年向け教育普及事業
 - ウ 学校支援事業
- (6) ミュージアムコンサート……………59
- (7) ミュージアムライブラリー……………60
- (8) 普及印刷物……………60
 - ア 図録
 - イ 広報印刷物
 - ウ 神奈川県立歴史博物館だより
- (9) ボランティアの活動……………60
 - ア 活動状況及び実績
 - イ 専門研修
 - ウ その他の研修
- (10) 博物館実習生の受け入れ……………61
 - ア 見学実習
 - イ 実務実習

6 資料

- (1) 条例・規則……………62
 - ア 神奈川県立の博物館条例
 - イ 神奈川県立の博物館組織規則
 - ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則
- (2) 利用案内……………66

1 沿革・理念

(1) 沿革

昭和 38 年 6 月	教育庁に博物館準備事務室を設置
昭和 41 年 11 月	神奈川県立博物館条例の制定により、神奈川県立博物館を設置 神奈川県立博物館組織規則の制定により、庶務部、学芸部の 2 部を置く
昭和 42 年 3 月	神奈川県立博物館開館
4 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により神奈川県博物館協議会を設置(委員 20 名)
6 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部に庶務課、経理課の 2 課を置く
昭和 43 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部に学芸課、人文課、自然課の 3 課を置く
昭和 44 年 3 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が国の重要文化財に指定される
昭和 44 年 7 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、庶務部を管理部に、庶務課を管理課に名称変更
昭和 47 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課の名称を廃し、企画調整課、学芸第一課、学芸第二課及び学芸第三課の 4 課を置く
昭和 49 年 8 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部に施設保全課を置く
昭和 52 年 5 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、学芸部の各課を廃止
昭和 53 年 9 月	文部省学術研究機関の指定を受ける
昭和 55 年 2 月	入館者数 100 万人達成
昭和 62 年 4 月	第 2 次新神奈川計画の重点政策「文化施設 21 世紀構想」の一環として、博物館再編整備事業策定
昭和 63 年 12 月	神奈川県立博物館整備構想懇談会が「神奈川県立博物館整備構想に関する提言－自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方－」を提出
平成 2 年 3 月	人文系博物館の整備計画・展示計画策定
平成 3 年 3 月	博物館総合情報システム整備計画、資料収集計画を策定
平成 4 年 3 月	展示基本設計
平成 5 年 3 月	改修工事基本・実施設計、展示工事实施設計
4 月	県立博物館休館(～7 年 3 月)
10 月	改修工事及び展示工事開始
平成 6 年 11 月	改修工事終了
平成 7 年 1 月	神奈川県立博物館条例改正に伴い「神奈川県立博物館」は「神奈川県立歴史博物館」と名称変更 、神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、企画情報部に企画普及課及び情報資料課の 1 部 2 課を置き、管理部の施設保全課を廃止
3 月	展示工事終了、博物館情報システムの一部稼働開始 神奈川県立歴史博物館開館(18 日)
6 月	国の史跡に指定される
平成 9 年 7 月	博物館ボランティアが活動を開始
平成 11 年 2 月	金銅装笈・椿彫木朱漆笈・清拙正澄墨跡・石室善玖墨跡・源頼朝袖判下文・源頼家袖判下文が県の重要文化財に指定される 神奈川の職人の道具(17 職種 1,982 点)が県の有形民俗文化財に指定される
平成 11 年 4 月	重要文化財の公開承認施設として文化庁から承認される
平成 13 年 1 月	三浦市間口洞窟遺跡出土品(450 点)が県の重要文化財に指定される
平成 13 年 3 月	附属機関の設置に関する条例の一部改正により、神奈川県博物館協議会を廃止
平成 18 年 4 月	神奈川県立博物館組織規則の一部改正により、管理部管理課と経理課を統合し管理課に改め、企画情報部企画普及課、情報資料課及び学芸部の 2 部 3 課となる
平成 19 年 11 月	旧館である旧横浜正金銀行本店が、経済産業省により近代化産業遺産(横浜港周辺の関連建築物群)に認定される
平成 21 年 8 月	入館者数 200 万人達成
平成 28 年 6 月	空調設備等改修工事のため休館(～平成 30 年 4 月)
9 月	事務室を(宇徳ビル 6 階に)移転
10 月	空調設備等改修工事開始
平成 29 年 12 月	空調設備等改修工事終了

(2) 神奈川県立歴史博物館の理念

神奈川県立歴史博物館の前身は昭和42年開館の神奈川県立博物館である。昭和62年から自然系と人文系が分離分館する再編整備の検討が行なわれ、平成7年のリニューアル開館に至るまで、3回にわたって博物館活動の理念やテーマが検討・提案された。

ア 昭和63年12月、神奈川県立博物館整備構想懇談会から提出された「神奈川県立博物館整備構想に関する提言―自然系博物館・人文系博物館の基本的な考え方―」（以下「提言」という。）

イ 平成2年3月に策定された「神奈川県立人文系博物館(仮称)整備計画」（以下「整備計画」という。）

ウ 平成7年3月の再編整備時に作られた「神奈川県立歴史博物館概要説明」（以下「概要」という。）

(ア) 「提言」における活動理念・テーマ

a 人文系博物館の「意義」（「提言」を要約、抜粋）

- (a) 文化の視点からの未来の探求
- (b) 考古、歴史、美術、民俗等を統合化した新しい文化史の創造
- (c) 歴史的、文化的特色による神奈川のアイデンティティーの探求
- (d) 振幅の大きな神奈川の歴史にみる人々の生き方の探求
- (e) 神奈川の文化と内外の文化との交流や相互関係の探求
- (f) 文化史的意義のある資料の集積と後世への継承

b 「基本テーマ」等の設定

(a) 基本テーマ：「文化の交流と変容」

上記の意義を踏まえ、また、神奈川の文化と歴史を専門的かつ学際的な観点から総合的にとらえる唯一の博物館として活動していくため、基本テーマが設定された。

(b) サブテーマ：「神奈川の文化と歴史を考える」「日本・世界の神奈川を考える」

空間的、時間的な広がりのある視点や、先人から受け継がれた地域の固有性をとらえる視点に立って2つのサブテーマが設定された。

(c) 展開の視点

これらの基本テーマ、サブテーマを、展示をはじめとした様々な博物館活動に反映させるため、次のような展開の視点が設けられた。

[継承] 各時代の文化と時代を超えて継承される文化を歴史の流れの中でとらえる

[交流] 他の国や他の地域との文化交流を空間的、時間的広がりの中でとらえる

[変容] 文化の変容をダイナミックにとらえる

[風土] 文化の特色を地域風土を通してとらえる

(イ) 「整備計画」における活動理念・テーマ

上記「提言」を受け、平成2年に「整備計画」が策定され、再編整備の具体的な内容がまとめられたが、「提言」における博物館の意義、性格、基本テーマなどは、歴史博物館のあるべき姿を示す目標・指針として継承されることとなった。

(ウ) 「概要」における活動理念・テーマ

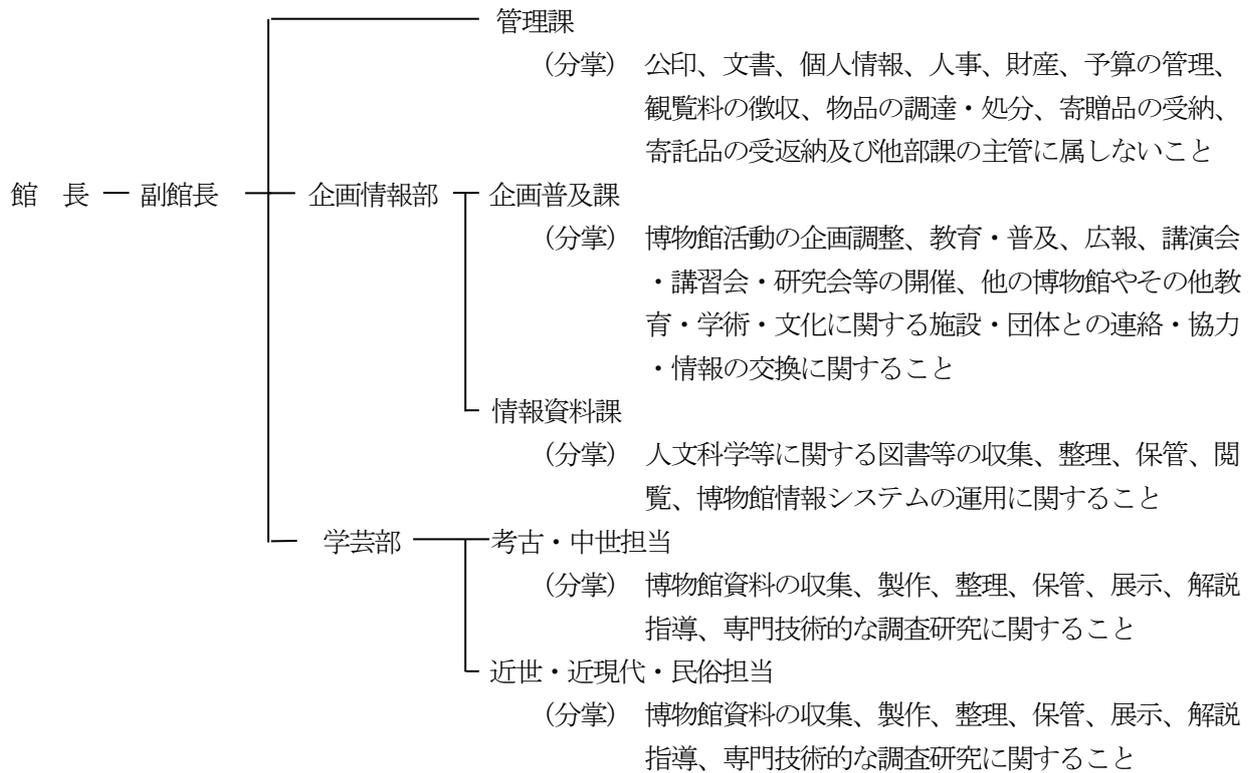
平成7年のリニューアル開館に際して作成された「概要」では、当館を「かながわの文化と歴史」を総合的に扱う博物館と位置付けて博物館活動の基本テーマとし、展示テーマを「文化の交流と変容」とすることが示された。

2 管理運営

(1) 組織

(平成29年4月1日現在)

ア 組織及び分掌



イ 職員名簿

館長(技術)	薄井 和男	非常勤司書	山梨 いずみ
副館長	目黒 節子	非常勤写真職	岸山 浩之
管理課長	勝又 隆	非常勤資料整理員	檜皮 千穂
管理課 副主幹	佐藤 好枝	非常勤資料整理員	加茂 たがね
副主幹	阿部 雅明	学芸部長(兼務)	天野 勇
主査(事務)	中山 聖枝	(考古・中世担当)	
主事	村野井 聡	学芸員	小井川 理
非常勤事務補助員	瀬戸 昇	学芸員	千葉 毅
非常勤事務補助員	柴田 健治	学芸員	神野 祐太
専門調整員	大塚 清志	学芸員	橋本 遼太
企画情報部長	天野 勇	臨時学芸員	渡邊 浩貴
企画普及課長(技術)	永井 晋	(近世・近現代・民俗担当)	
企画普及課 主査	大島 理加	主任学芸員	嶋村 元宏
専門員(事務)	余合 和歌子	主任学芸員	桑山 童奈
非常勤教育普及員	有村 泰治	主任学芸員	丹治 雄一
非常勤事務補助員	豊田 倫子	主任学芸員	角田 拓朗
非常勤職員	野島 愛子	学芸員	新井 裕美
非常勤学芸員	田辺 可奈	学芸員	武田 周一郎
非常勤学芸員	泉山 花江	専門員(技術)	古宮 雅明
非常勤学芸員	濱本 明海	非常勤学芸員	根本 佐智子
情報資料課長	宇賀田 信	非常勤学芸員	三浦 麻緒
情報資料課 副主幹	伊藤 友久	非常勤資料整理員	吉澤 智恵子
副主幹(県区兼務)	石尾 久美子	非常勤資料整理員	菅沢 そわか
専門員(事務)	黒田 博明	専門員(事務)	新井 実
非常勤司書	鈴木 隆雄	専門員(事務)	小堀 信夫

(2) 歳入・歳出

ア 歳入

(単位：千円)

科 目	金 額	内 訳
教育事業収入	265	図録販売収入
立替収入	2,807	空調設備改修工事等の電気料
雑入	14,961	仮事務所敷金返還収入
教育受講料収入	246	県立社会教育施設公開講座受講料
合 計	18,279	

イ 歳出(人件費含まず)

(単位：千円)

事 業 名	金 額	内 訳
維持運営費	175,597	維持管理・事業運営
博物館事業費	6,894	調査研究、資料整備、学習支援等
情報システム整備費	49,959	システム運用、データ入力等
県立社会教育施設公開講座開催事業費	280	講座の開催
教育施設維持修繕費	1,163	施設・設備の修繕
教育施設各所修繕費	2,376	消防設備の修繕
合 計	236,269	

(3) 入館者状況

空調設備等改修工事により平成28年6月1日(水)から休館のため入館者なし

(4) 広報・広聴

ア 広報実績

平成29年度の広報実績は下記のとおり(館のPR、特別展・テーマ展、催しもの等)。

(単位：件)

媒体別	紙媒体				電波媒体		インター ネット	計
	新聞	雑誌	単行書	その他	テレビ	ラジオ		
件数	4	2	6	10	1	1	34	58

(5) 施設概要

ア 概要

(ア) 施設の規模

敷地面積	4,160.82 m ²
構造	石・煉瓦造り(一部鉄筋コンクリート造り)地上3階・地下1階
延床面積	10,565.47 m ²
部門別面積	展示部門=約3,896 m ² 、学習支援部門=約386 m ² 、収蔵部門=約619 m ² 研究部門=約1,306 m ² 、サービス部門=約438 m ² 、管理部門=約1,251 m ² その他共用部分=約2,670 m ²

(イ) 建物の特徴

旧館部分	旧横浜正金銀行本店本館(明治37年(1904)竣工、設計：妻木頼黄) ネオ・バロック様式
新館部分	神奈川県立博物館として新築(昭和42年(1967))
指定状況	国指定重要文化財(建物旧館部分・昭和44年(1969)3月12日指定) 国指定史跡(平成7年(1995)6月27日指定)

(ウ) 施設の状況

- 1 階：【展示室、学習支援関係諸室】
特別展示室、コレクション展示室、
ミュージアムライブラリー、ミュージアムショップ、喫茶室、情報処理室 等

- 2 階：【展示室、管理課・企画情報部関係諸室】
総合テーマ展示室(近世・近代・現代、民俗)
館長室、管理課、企画情報部、応接室、図書整理室、書庫 等
- 3 階：【展示室、学芸部関係諸室】
総合テーマ展示室(古代・中世)
学芸部、資料整理室、展示準備工作室、作業室、収蔵庫 等
- 地下1階：【講堂、バックヤード諸設備】
講堂、収蔵庫、荷捌室、防災センター、写場、暗室、資料整理室、その他機械室等

イ 館内施設

1階のフリーゾーンには来館者のために次の施設がある。

(ア) ミュージアムショップ

博物館の刊行物(展示解説書、特別展図録)をはじめ、神奈川の文化や歴史に関する書籍、所蔵資料の絵はがき、博物館見学の記念になるような品々を販売する。運営は民間の企業が行っている。

(イ) ともしひ喫茶室

来館者に休憩してもらえるように喫茶室がある。軽食、喫茶ができ、店内には県内の福祉施設で作られた品々も販売されている。運営は「社会福祉法人 県央福祉会」が行い、知的障がい者の就業の場ともなっている。

ウ 外部協力

神奈川県立歴史博物館には、県内の博物館の質的向上や文化財に対する普及啓発を行う次の外部団体の事務局が設置されている。

(ア) 神奈川県文化財協会

昭和29年(1954)から活動している任意団体である。現在は会員に対しての講演会、見学会など文化財に関する知識の啓発活動を中心に活動している。協会員数212人(平成29年4月1日現在)。

事務局長	副館長	目黒 節子
事務局次長	企画情報部長兼学芸部長	天野 勇
事務局員	企画普及課長	永井 晋
〃	学芸員	新井 裕美
〃	学芸員	神野 祐太
〃	副主幹	阿部 雅明
〃	主事	村野井 聡
〃	専門員(事務)	新井 実

(イ) 神奈川県博物館協会

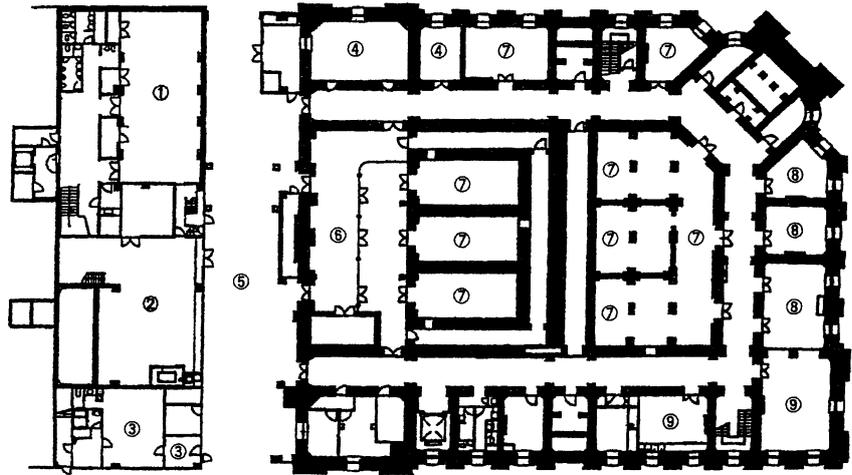
昭和30年(1955)から活動している県内博物館施設の任意団体で、博物館のPR、職員の研修、会報の発行など各種活動を行っている。加盟館園数97館(平成29年4月1日現在)。

会長	館長	薄井 和男
事務局長	副館長	目黒 節子
事務局次長	企画情報部長兼学芸部長	天野 勇
60周年記念事業		
災害対策部会担当幹事	主任学芸員	角田 拓朗
人文科学部会幹事	学芸員	千葉 毅
事務局員	副主幹	佐藤 好枝
〃	専門員(事務)	小堀 信夫

エ 平面図

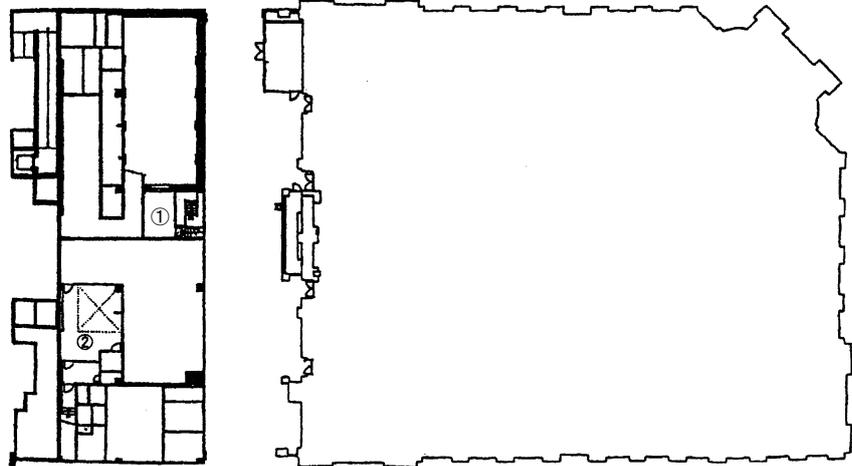
地下平面図

- ①講堂
- ②機械室
- ③防災センター・保安室
- ④電気室
- ⑤サービスヤード
- ⑥荷捌室
- ⑦収蔵庫
- ⑧資料整理室
- ⑨写場・暗室



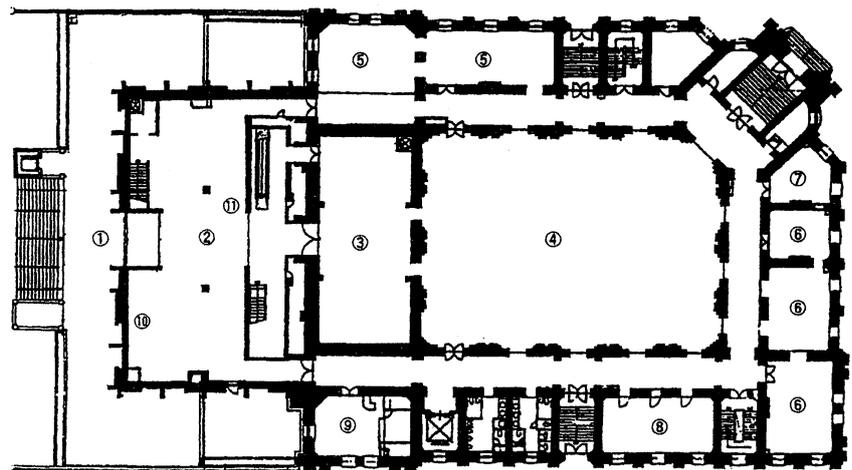
中1階平面図

- ①放送器機・映写室
- ②中央監視室



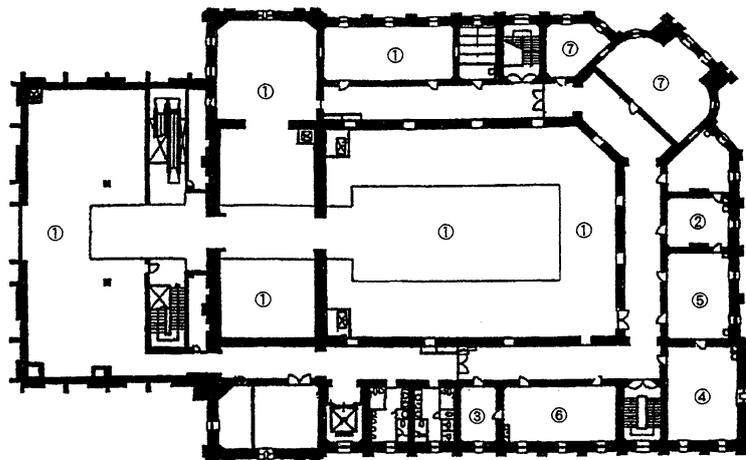
1階平面図

- ①玄関
- ②エントランスホール
- ③導入展示室
- ④特別展示室
- ⑤コレクション展示室
- ⑥ミュージアムライブラリー
- ⑦情報処理室
- ⑧会議室
- ⑨喫茶室
- ⑩ミュージアムショップ
- ⑪総合案内



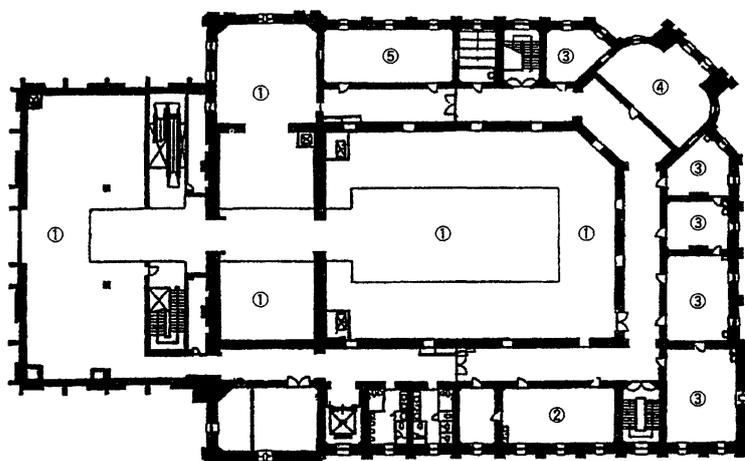
2階平面図

- ①展示室
- ②館長室
- ③第二応接室
- ④管理課
- ⑤応接室
- ⑥企画情報部
- ⑦図書整理室・書庫



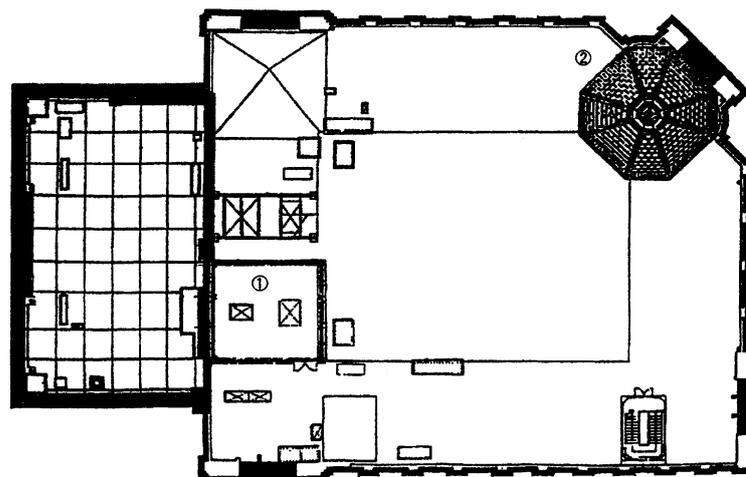
3階平面図

- ①展示室
- ②学芸部
- ③資料整理室
- ④展示機材倉庫
- ⑤收藏庫



屋上平面図

- ①空調機械室
- ②ドーム



3 調査・研究

(1) 館独自の研究事業費によるもの

ア 総合研究

テ ー マ：岩橋教章・章山に関する総合的研究

担 当：主任学芸員 角田 拓朗・学芸員 武田 周一郎

共同研究者：森 登 氏（銅石版画研究）

期 間：平成 26～29 年度

概 要：近代の地図製作を担った岩橋親子に関する総合的研究。当館に収蔵される資料群を中心に、公文書、関連資料類を収集・分析し、両者の活動を具体的に明らかにした。あわせて美術史、地図史上の位置付けを探り、日本印刷文化史という大きな枠組みも想定し、そのなかで彼らの活動を再確認する試みも行った。岩橋教章は幕末期から継続して地図製作に取り組み、オーストリアでの学習を大きな転換点として、近代地図製作を一新させたことを具体的な史料類から明らかとした。また、その息子章山はこれまで言及されることがなかったが、章山の思想とその活動について資料を用いて可能な限り具体化することで、教章イメージを彼が再構築している事実を指摘した。以上の調査概要は、平成 29 年 12 月に研究成果報告書としてまとめている。

イ 個別研究

テ ー マ：中世都市鎌倉における密教の成立と展開

担 当：企画普及課長 永井 晋

期 間：平成 29 年度

概 要：鎌倉時代は、京都で鎮護国家の仏教として隆盛を誇っていた密教が将軍家を護持するための武家鎮護の仏教として鎌倉に進出し、鎌倉の仏教儀礼の中核に位置づけられていった。本研究は 3 年を目安として、鎌倉幕府を守護する仏教として主流派を形成した天台・真言の密教が鎌倉に進出し、展開して行く過程を明らかにしていく。研究成果は全 3 本の連作論文を予定し、鎌倉に進出して行く過程を論じた第一論文、京都に準ずる水準に到達するまでの過程を論じた第二論文、鎌倉の武家社会を護持する密教としてその地位を確立した時期を論じた第三論文の形で成立から確立までの歴史を解明していく。第一論文は、『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』44 号に「中世都市鎌倉における密教の成立と展開」として論文掲載。第二論文は、『神奈川県立歴史博物館研究報告—人文科学—』45 号にエントリー。当館の研究費による研究成果は、第二論文までである。

ウ グループ研究

次のテーマでグループごとに研究を進めている。

考 古：神奈川県内遺跡・遺物調査

中 世：宋風文化の研究

近 代：横浜の木版印刷に関する基礎的研究

現 代：戦後横浜における映画館活動に関する基礎的研究

民 俗：民俗社会における諸行事の変化

教育普及：小・中学校の実習を支援するワークシートの開発と検証

エ 調査研究成果報告会

平成 29 年度の調査研究成果報告会は、再開館に向けたスケジュール調整の結果、平成 30 年 5 月 30 日（水）に実施。内容については平成 30 年度の年報へ記載する。

(2) 日本学術振興会科学研究費助成事業によるもの

神奈川県立博物館であった昭和 53 年度から、文部省学術研究機関の指定を受け、科学研究費助成金が交付されるようになった。神奈川県立歴史博物館に機構変更後も継続して指定されている。平成 29 年度の採択は 5 件である。

- ア 研究種目名：基盤研究 (B)
課題番号：16H03378
研究課題：大小摺物（絵暦）の美術史及び文化史に関する総合的研究
研究代表者：独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館 客員研究員 岩崎 均史 氏
研究分担者：主任学芸員 桑山 童奈
研究期間：平成28～30年度
研究実績概要：当館で借用している大小暦コレクションについて、写真撮影の上、データの収集を行った。
- イ 研究種目名：基盤研究 (B)
課題番号：15H03502
研究課題：明治図画手工教科書データベース構築に向けた総合的基礎研究
研究代表者：岡山大学大学院教授 赤木 里香子 氏
研究分担者：主任学芸員 角田 拓朗
研究期間：平成27～29年度
研究実績概要：本年度は公開用データベースの構築に専念し、そのサンプル版の完成にたどり着いた。また、その過程で教科書群の整理分類に関する指針を把握したことにより、今後の新たな研究課題を発見、さらにデータベースを拡充する手ごたえをつかんだ。同時に、本研究期間内に深めた知見等については、年度末に成果報告書としてまとめた。
- ウ 研究種目名：基盤研究 (C)
課題番号：17K02339
研究課題：原三溪関係資料の基礎的研究ーコレクション形成の具体相の解明ー
研究代表者：学芸員 小井川 理
研究分担者：学芸員 武田 周一郎、学芸員 神野 祐太、学芸員 橋本 遼太、学芸員 渡邊 浩貴、日本女子大学教授 古川 元也
研究期間：平成29～32年度
研究実績概要：本研究は、明治期に横浜で活躍した実業家・原三溪の関係資料群を対象とした基礎的調査研究として、資料群の分析および解釈により、三溪のコレクション形成の様相の復元をおこない、その志向性を明らかにするものである。平成29年度は、①資料群の全体像の把握、②資料調査および撮影、③調査・撮影済み資料の再整理、を作業目標とし、主に②資料調査および撮影を中心に作業を進めた。
- エ 研究種目名：研究活動スタート支援
課題番号：17H07410
研究課題：地図印刷技術者・岩橋章山の思想と台湾での動向に関する基礎的研究
研究代表者：学芸員 武田 周一郎
研究期間：平成29～30年度
研究実績概要：本研究は、地図印刷技術者である岩橋章山の技術・動向・思想を分析し、日本と台湾における地図印刷技術の普及に果たした役割を明らかにすることを目的とする。本年度の研究成果の一部として、当館の総合研究報告書『岩橋教章・章山に関する総合的研究』（研究代表：角田 拓朗、2017年）に関係資料の翻刻と解題、論考をまとめた。
- オ 研究種目名：研究活動スタート支援
課題番号：16H07488
研究課題：鎌倉～南北朝時代におけるやまと絵の様式展開に関する基礎的研究
研究代表者：学芸員 橋本 遼太
研究期間：平成28～29年度
研究実績概要：制作年の明らかな基準作例（おもに絵画）の作品調査により、鎌倉時代～南北朝時代のやまと絵の様式展開について考察する研究課題。29年度は静嘉堂文庫美術館、MOA美術

館、長寿院（東京都台東区）、草堂寺（和歌山県西牟婁郡白浜町）などで作品調査の機会を得た。

(3) その他外部研究資金によるもの

- ア 助成内容：海の学びミュージアムサポート P3 調査研究サポート
研究課題：開国をテーマとする「海の学び」学習支援プログラムの開発に関する基礎的研究
研究代表者：主任学芸員 嶋村 元宏
研究分担者：横浜薬科大学教授 梶 輝行 氏、大阪人権博物館学芸員 吉村 智博氏、
開成高等学校教諭 松本 英治 氏、行田市郷土博物館学芸員 澤村 怜薫 氏
研究期間：平成28年4月～平成29年6月
研究実績概要：学校における「海の学び」については、主に理科分野が中心であったことから、神奈川の歴史ならではの「開国」をテーマに、資料を活用した「海の学び」学習支援プログラムを開発することで、博学連携の強化を図ることとした。そこで、前年度に引き続き、博物館を知る教員と学芸員を研究分担者とする研究会を組織し、資料調査や他の博物館の事例研究を行い、本年度は、主として小学校教員向けプログラムと児童向けプログラムについて検討した。これにより、これまで「海の学び」のみならず、博物館（資料）の活用に関心を向けてこなかった教員が、積極的に博物館ならびに資料を利用する機会を増進することにつなげることを目論んだ。その結果、本年度は以下の成果を得ることができた。
- 教員および他館で博学連携にかかわる学芸員とともに研究会を組織し、調査研究テーマについて多角的に議論することにより、多様な学習支援プログラムをそろえることができた。
 - 他の博物館の博学連携状況を実見する機会を持つことができた。
 - 当館所蔵資料に加え、他機関所蔵資料を調査研究することで、学習支援プログラムの幅を広げることができた
 - 神奈川県のみならず、他地域へも適用可能なオプションをプログラムへ取り入れることができた。

- イ 助成内容：センチュリー文化財団赤尾記念基金
研究課題：経筒・経塚の中世景観—荘園現地調査によるアプローチから—
研究代表者：臨時学芸員 渡邊 浩貴
研究期間：平成29年4月～平成30年3月
研究実績概要：本研究は、経塚の立地環境と中世武士団本拠の形成を比較検討することで、既存地域社会での霊場と、武士本拠との相関関係を文献調査と現地調査の両方向からあきらかにするものである。本年度の研究成果として、「北武蔵の武士本拠と湧水開発」（埼玉県立嵐山史跡の博物館『平成29年度シンポジウム「武蔵武士とその本拠」資料集』2018年1月）[単著・論文、口頭報告]、「石見国長野荘俣賀氏の本拠景観と生業・紛争」（『国立歴史民俗博物館研究報告』212、2018年12月掲載予定）[単著・論文]、「益田實氏所蔵新出中世文書の紹介」（『国立歴史民俗博物館研究報告』2018年12月掲載予定）[田中大喜・中島圭一・西田友広・中司健一と共著・史料紹介]、「石見国長野荘内田氏の本拠景観と地域社会」（『年報三田中世史研究』23、2018年12月掲載予定）[単著・論文]などがある。

(4) 個人研究活動

- ア 研究報告書
- (ア) 『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第44号 平成30年1月19日発行
- a 種別：論文
表題：中世都市鎌倉における密教の成立と展開
筆者：企画普及課長 永井 晋

要 旨：本稿は、源頼朝が鎌倉に武家政権を開いたことで始まる武家鎮護を目的とした鎌倉の密教の成立過程を論じたものである。源頼朝が鎌倉に政権を開いた時、鎌倉に密教の修法を行う基盤はなかった。源頼朝は、鎌倉を守護する宗教の拠点として現在の場所に鶴岡八幡宮を整備したが、鎌倉に集まってきた僧侶は勤行とよばれる読経による法会は執り行っても、密教の修法を行うことはできなかった。密教をよく知る僧が鎌倉に定住するのは、治承四年の以仁王事件に関与した責任を問われた園城寺の錦織僧正行暁の弟子で、源頼朝の従兄弟にあたる円暁の鎌倉下向に始まる。園城寺は源家将軍が有力な外護者となることを期待して友好的な態度をとった。園城寺前長吏公頭は、頼朝の依頼によって鎌倉に下向し、勝長寿院供養などの大規模な修法の導師を勤めた。延暦寺の小川法印忠快は、三代将軍源実朝の篤い信頼を得て将軍家を護る修法を鎌倉で行った。延暦寺は、これを関東先例とよぶ。山門派の鎌倉進出は、忠快と禅密兼修を説いた栄西が中核になっていく。源家将軍と園城寺の関係は、建保七年に公頭の孫弟子で鶴岡社務を勤めた公暁の源実朝暗殺でひとつの時代が終わることになった。鶴岡社務職も、真言密教広沢流の定豪に交代した。本稿は、四代将軍九条頼経の時代を主導することになる定豪の法流が鎌倉で勢力伸長するまでを述べるものである。

キーワード：顕密仏教、武家鎮護、鎌倉幕府

b 種 別：研究ノート

表 題：神奈川県立図書館蔵「横浜風景画帖」にみる版元和泉屋市兵衛の横浜進出

筆 者：主任学芸員 桑山 童奈

要 旨：横浜開港後からおもに明治初期頃まで出版された、開港期の横浜の町の様子や来航した外国人の姿が描かれた錦絵作品群を「横浜浮世絵」と呼び、現在では約 840 点を横浜浮世絵と分類している。神奈川県立図書館所蔵「横浜風景画帖」は大判三枚続の横浜浮世絵 12 点と版元の引札を巻頭と巻末に併せて綴じた画帖である。引札は横浜最初の書肆とされる東屋新吉と江戸の版元和泉屋市兵衛連名のもとの和泉屋単独のもので、それぞれ客の好みに応じて複数の錦絵を綴じて製本することをうたっている。収録された 12 点は 4 名の浮世絵師によるもので、画面には万延元（1860）年の 2 月から 7 月までの改印が見られる。描かれているのは本町通や港崎遊郭という新しい名所を含む横浜の町である。和泉屋の引札と和泉屋が出版した錦絵を収録することから、本稿では本画帖が和泉屋が東屋と提携して横浜での販売を行っていたことを示すものではないかと考える。

キーワード：錦絵、横浜浮世絵、横浜絵、絵草紙屋、地本問屋、五雲亭貞秀、歌川国芳

c 種 別：研究ノート

表 題：川崎宿復元の試み

筆 者：非常勤学芸員 根本 佐智子

要 旨：文久三年二月の将軍上洛に際し、東海道筋の各宿場では宿並に関する詳細な書上げが作成された。川崎宿においても「文久三年将軍御上洛ニ付宿並図書上」（川崎市市民ミュージアム所蔵）が作成され、当時の川崎宿の宿並の様子を詳細に知ることができる。この「文久三年将軍御上洛ニ付宿並図書上」のデータを表にまとめ、さらに一軒ずつを明治初期に作成された「川崎駅全体之図」（同所蔵）の地割りに配置をすることで、川崎宿の宿並の推定復元を試みた。川崎宿全体の推定復元は今まで行われておらず、今後の川崎宿研究の基礎資料としたい。

キーワード：東海道、川崎宿、宿並、将軍上洛、推定復元

d 種 別：研究ノート

表 題：近代鎌倉彫における古面意匠の採用について—鎌倉彫後藤家の帳簿類と現存作例から—

筆 者：学芸員 小井川 理

要 旨：中世以来鎌倉仏師として活動し、明治時代以後は器物を主体とする近代鎌倉彫を牽引した後藤家には、明治 20～40 年代の鎌倉彫の受注を記録する帳簿類が伝来し、鎌倉彫が近代工芸として確立していく時期の作品制作の実際をうかがわせる。帳簿類の記録を見て行く

と、舞楽面や伎楽面など、中世に遡る遺品や由緒を想起させる古面を器物の意匠として採用したのを見いだされる。古面意匠を採用する傾向は、明治37年・38年の万国博覧会に後藤家が出品した諸器物や現存作例にもうかがわれ、この時期の鎌倉彫の特質の一つと考えることができる。

キーワード：近代鎌倉彫、後藤家、意匠、舞楽面、伎楽面

e 種別：研究ノート

表題：神奈川県内の高遠石工の活動

—江戸時代中期から明治時代末期における石造物の造立状況—

筆者：学芸員 新井 裕美

要旨：本稿では、近世以降に現在の神奈川県域である相模国と武蔵国内で造られた各種石造物の銘から、信濃国一特に伊那郡高遠藩出身（長野県伊那市）の高遠石工の活動を分析する。高遠石工は、江戸時代前期頃から同国内・甲斐・上野・相模・武蔵・駿河・美濃などへ出稼ぎに行き、滞在先で様々な石造物の製作に従事した。着目する対象は、近世中期以降に庶民信仰の隆盛に伴って造立された地蔵や庚申塔など信仰に関わる石造物、石段等の建築物、そして高遠石工自身の墓である。この分析から、造立年代、造立地域、石工の出身地については明確な傾向があることが判明した。造立年代のピークは宝暦11（1761）から明和7（1770）年で11基あり、造立が断続的ながらも多くみられたのは厚木市域、伊勢原市域、平塚市域であった。石工の出身地は、高遠藩領藤沢郷のうち北原村と荒町村が多かった。

キーワード：高遠石工、石造物、出稼ぎ

f 種別：研究ノート

表題：博物館資料を活用した歴史体験プログラムの研究について—「地域素材の研究化」考—

筆者：主任学芸員 嶋村 元宏

要旨：「総合的な学習の時間」が2000年度に新設されたことを契機として、それまで以上に博学連携の強化が求められた。そこで多くの博物館では、博物館そのものや博物館資料の活用について、教員に知ってもらうための講座やプログラムの開発が進み、今日まで多くの事例が蓄積されている。そのような中、神奈川県立歴史博物館では、教員向けの講座として、「教員のための博物館講座」を毎年開催している。筆者は2016年度に「幕末開港期の舞台・関内と山手を歩く」をテーマに、「資料の読み取り方」を講じるとともに、地域素材でもある博物館資料を教材化する一例として、フィールドワークを含むプログラムを提案し、受講者が児童・生徒の立場になってそのフィールドワークを実践してもらった。本稿はそのプログラムを紹介するものである。このプログラムは、「資料に描かれたり、写されたりした地点を、幕末・明治期に作成された絵地図を使って訪れる」ものであり、事前に資料に見える場所を推測してもらい、正解を確定しない中で実際に街を歩く方法をとった。これは、推測＝仮説を自身の観察により検証するもので、移動中の新たな発見や疑問、課題とは関係のないことに関心を持ってもらうことを重視し、自ら気づく力を養ううえでも、効果的なプログラムであり、横浜に限らず、各学校が所在する地域での応用が図れることを指摘した。

キーワード：博学連携、地域素材の教材化、フィールドワーク

g 種別：研究ノート

表題：常設展示室における来館者動向について—ボランティアスタッフの視点から—

筆者：非常勤学芸員 田辺 可奈

要旨：当館の、特に常設展示室において、当館の来館者が、どのような人たちで、どのようなものに興味を持ち、展示室をどのように見て、どのように理解しているのかについて調査すべく、アンケート調査と一部聞き取り調査を実施した。本稿はその結果を分析したものである。今回の調査では、当館の展示解説ボランティアに当館の来館者についてのアンケートを行った。また、展示解説ボランティアへのアンケート結果を比較分析するため、来館

者へのアンケートを実施し、補足的に分析した。来館者傾向については、ボランティアスタッフの印象と来館者アンケート回答者のデータを比較検討し、年齢や性別、展示室内の動線などについて分析した。また、アンケートの記述から、常設展での当館来館者の学びの多様性を指摘した他、ボランティアとのコミュニケーションが学びを深めていることを指摘した。

キーワード：来館者調査、博物館体験、ボランティア、学び

h 種別：資料紹介

表題：松平造酒助江戸在勤日記 一元治元年十月朔日～十一月十日-

筆者：非常勤学芸員 根本 佐智子/専門員 古宮 雅明

要旨：当館所蔵「松平造酒助江戸在勤日記」の翻刻。筆者松平造酒助は庄内藩士で、家禄は千四百石。組頭や家中武器取扱掛を務めた人物。元治元年八月下旬から慶應元年八月下旬まで江戸に在勤した。本稿は全五十綴のうち第七綴から第十三綴までを掲載した。庄内藩が担った江戸市中取締の様子や、水戸天狗党が立て籠もった那珂湊の戦いなどの記事がある。

キーワード：松平造酒助、庄内藩、元治元年、江戸市中取締、新徴組、天狗党

イ 個人研究活動

(凡例) (刊行年などは西暦で統一)

氏名(役職・専門分野等)

(ア) 著作

a 単著・共著・学術論文

b 書評・余録

c 資(史)料紹介

(イ) 学術口頭報告

(ウ) 図録執筆・解説書執筆

(エ) 新聞・雑誌等への寄稿

(オ) 各種調査委員会等

(カ) 講師等

a 講座講師等(特に館名を記さないものは神奈川県立歴史博物館での実施)

b 県博講座等講師(特に館名を記さないものは、宇徳ビル会議室)

c 出張講座講師

(キ) ここ1年間の課題・研究テーマ

薄井 和男(館長・美術・中世)

(ア)a 「彫刻(仏像・神像)」(神野祐太と共著、『津久井町史』文化遺産編、pp.103-159、2018年3月)

(オ) 相模原市文化財保護審議会委員、逗子市文化財保護審議会委員、厚木市文化財保護審議会委員、川崎市文化財保護審議会委員、大磯町文化財保護審議会委員、平塚市文化財保護審議会委員、秦野市文化財審議会委員、時宗文化財調査委員

(カ)b 県博講座「県央・県西の古寺と仏像」(全4回 ①『厚木・平塚・大磯地域の仏像』8月10日、②『伊勢原・秦野地域の仏像』8月24日、③『小田原・箱根地方の仏像』9月7日、④現地見学会『宝城坊(日向薬師)の見学と仏像拝観』講師：立花実氏(伊勢原市教育総務課歴史文化担当課長)9月27日)

(キ) 県内所在の神社所蔵の神像調査を行った。

永井 晋(企画普及課長・歴史・中世)

(ア)a 「鎌倉時代の小槻氏と常陸国吉田社」(『鎌倉遺文研究』39号、pp.1-17、4月)

「源範頼の人物像」(『武蔵武士の諸相』所収、勉誠出版、pp.546-563、10月)

「中世都市鎌倉における密教の成立と展開」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』44号、pp.1-20、2018年1月)

「後白河院」・「源頼朝」・「源義経」・「北条政子」（『悪の歴史 日本編 上』、清水書院、pp. 144-163、174-193、194-217、9月）

「源平の争乱と『平家物語』」（『相模武士団』、吉川弘文館、pp. 35-51、9月）

「『吾妻鏡』と御成敗式目」（『悠久』150号、pp. 46-60、7月）

- b 「大蔵合戦の記憶」（『武蔵武士の諸相』所収、勉誠出版、pp. 79-90、10月）

「中世の茶とのであい」（『喫茶人』72号、pp. 6-7、2018年3月）

「休館中の講演・講座について—学芸員の魅力あふれる講座を通して—」（『神奈川県立歴史博物館だより』、207号、pp. 8、2018年2月）

- (f) 日本学術振興会科学研究費委員会専門委員（若手研究）、横須賀市文化財専門審議会委員、日本仏教総合研究学会評議員、NPO法人 鎌倉考古学研究所正会員

- (g) 県博講座「鎌倉における密教の成立と展開」（全4回 ①『鶴岡八幡宮の成立と発展』4月11日、②『園城寺の鎌倉進出と密教修法の成立』4月25日、③『仁和寺の鎌倉進出と鶴岡社務頭弁』5月9日、④『延暦寺との対立と鶴岡社務頭弁』、5月23日）

県博講座「神奈川の近代化遺産」（全4回のうち ③『東京湾要塞、猿島砲台について』5月11日）

県博講座「日記で読む源平合戦」（全4回 ①『富士川の合戦』7月2日、②『治承四年冬の平氏の反攻』7月9日、③『寿永元年・二年の北陸道の戦い』7月16日、④『一ノ谷合戦』、7月23日）

地域巡回講座「三浦一族の本拠地を訪ねて」（清雲寺・満昌寺・満願寺、4月20日）

地域巡回講座「国宝、金沢文庫文書にひたる」（金沢文庫、5月10日）

博物館体験教室「お茶くらべ」（松永記念館、9月8日）

博物館入門講座「博物館活動と学芸員」8月19日

- c 出張講座「蒙古襲来」（県立希望ヶ丘高等学校（定時制）、6月22日）

出張講座「鎌倉の歴史」（福沢小学校、6月29日）

- (h) 「中世都市鎌倉の密教」について研究

(考古)

千葉 毅（学芸員・先史）

- (f) a 「千葉県松戸市中峠遺跡第7次調査報告」（共著、『下総考古学』24、pp. 67-198、5月、下総考古学研究会）

「中峠遺跡第6次調査地点1号住居地に隣接する「ピット」出土の土器群について」（共著、『下総考古学』24、pp. 215-221、5月、下総考古学研究会）

『神奈川県立博物館・神奈川県立歴史博物館 50年のあゆみ』（編著・神野祐太・千葉 毅、pp. 1-152、3月、神奈川県立歴史博物館）

- b 「つなぐ、つながる、つなげる—神奈川県博開館51周年記念特別展 つなぐ、神奈川県博—Collection to Connection—」（『神奈川県立歴史博物館だより』207号、神野祐太・新井裕美・橋本遼太・武田周一郎との共著、pp. 4-7、2018年2月）

- (i) 「神奈川県三浦市間口洞窟遺跡出土骨角器の修復事例報告」（共同発表、日本文化財科学会 第34回大会、6月9日、日本文化財科学会、東北芸術工科大学〔ポスター発表〕）

- (k) a 金沢を知る講演会「二つの貝塚と縄文時代」、神奈川県立金沢文庫、9月2日

歴史講座「考古学とは?」、八聖殿郷土資料館、10月21日

金沢町内会勉強会「縄文時代の金沢」、10月22日

- b 県博講座「神奈川の近代化遺産」（全4回のうち②『太平洋戦争末期の戦争遺跡—横浜市連合艦隊司令部地下壕—』4月27日）

県博講座（共同発表）「考古学×植物学 縄文時代のドングリ圧痕土器から分野を超えた情報アーカイブを考える」7月20日

県博セミナー「縄文の遺物と戦争遺跡から考古学の考え方、その可能性と文化財のこれからを考える」7月23日

地域巡回講座「連合艦隊司令部地下壕を知る（現地見学）」8月30日

- c 出張講座「考古学の魅力」（横浜市立南戸塚小学校、4月19日/フェリス女学院中学校、5月18日）

- (キ) 休館により館蔵資料のアクセスが困難であったため、当館所蔵の考古資料に関わる情報の整理を進めた。特に当館刊行の発掘調査報告書等のウェブ公開等に向けて、資料のデジタル化やデータベース整備を進めている。

(中世)

渡邊 浩貴 (臨時学芸員・歴史)

- (ア) a 「間藤家文書—近世土豪の由緒と中世文書—」 (春田直紀編『中世地下文書の世界—史料論のフロンティア—』勉誠出版、pp.190-204、5月)
『中世益田現地調査成果概報 vol. 1』 (共著、国立歴史民俗博物館、pp.3-5、8-9、12-17、9月)
「北武蔵の武士本拠と湧水開発」 (埼玉県立嵐山史跡の博物館編『平成29年度シンポジウム「武蔵武士とその本拠」資料集』、pp.13-30、2018年1月)
「崖線の在地領主—武蔵国立川氏の水資源開発と地域景観—」 (『国立歴史民俗博物館研究報告』第209集、pp.157-176、2018年3月)
- (イ) 「長野荘の中世景観と領主拠点—荘園現地調査経過報告—」 (国立歴史民俗博物館平成28年度共同研究「日本中世の地域社会における武家領主支配の研究」にかかる「平成28年度石見国長野荘・益田荘調査成果報告会」国立歴史民俗博物館、4月29日)
「北武蔵の武士本拠と湧水開発」 「平成29年度シンポジウム 武蔵武士とその本拠」 (埼玉県立嵐山史跡の博物館、国立女性教育会館講堂、2018年1月27日・28日)
- (ロ) 八王子市史編さん室中世史部会・調査員、立川市史編さん室古代・中世史部会・主任調査員、国立歴史民俗博物館リサーチアシスタント
- (カ) b 県博講座「中世の古文書を読む」 (全4回 ①「中世武士と文書の世界」6月1日、②「戦場をかけめぐる文書たち」6月15日、③「中世文書のひろがり」6月29日、④「庶民の生活と文書」7月13日)
県博講座 学芸員が推すこの逸品「足利晴氏公帖」8月26日
- c 出張講座「鎌倉の歴史」 (横浜市立相沢小学校、6月21日/厚木市立鳶尾小学校、6月27日/茅ヶ崎市東海岸小学校、7月6日/聖セシリア女子中学校、7月21日)
出張講座「足柄上郡山北の歴史」 (山北町立山北中学校、6月23日)
- (キ) 東国武士の本拠景観と地域開発の景観復原的研究

小井川 理 (学芸員・美術 [工芸])

- (ア) a 「研究成果報告書 神奈川県立歴史博物館総合研究〈平成26～28年度〉鎌倉彫後藤家資料にみる近代鎌倉彫の受注に関する基礎的研究」 (神奈川県立歴史博物館、5月)
「津久井町史 文化遺産編」第1章、第4節・第5節 (相模原市、2018年3月)
- b 「重要文化財〈十王図〉の修理について」 (『神奈川県立歴史博物館だより』206号、pp.2-3、10月)
「近代鎌倉彫における古面意匠の採用について—鎌倉彫後藤家の帳簿類と現存作例から—」 (『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第44号、pp.51-60、神奈川県立歴史博物館、2018年1月)
- (ウ) 図録『特別展 横浜の元祖 寶生寺—寶生寺聖教横浜市文化財指定記念—』作品解説分担執筆 (神奈川県立金沢文庫、8月)
図録『特別展 鎌倉彫の仏具—こめられた想い 受け継がれる形—』分担執筆 (鎌倉彫資料館、10月)
図録『特別展 唐物—中世鎌倉文化を彩る海の恩恵—』作品解説分担執筆 (神奈川県立金沢文庫、11月)
- (ロ) 津久井町史調査執筆員 (文化遺産部会員)
- (カ) a やまと市民大学 人間を知るコース 日本の伝統・文化の魅力を学ぶ「日本の伝統・文化 ～茶の湯からみえるもの～ 七夕によせて」大和市林間学習センター、7月1日
展示解説「特別展 鎌倉彫の仏具—こめられた想い 受け継がれる形—」鎌倉彫資料館、10月22日

- b 県博講座「眞葛焼の魅力」（全4回 ①『開窯—京都から横浜へ—』4月22日、②『高浮彫—世界の「マクズウェア」』5月13日、③『釉下彩—帝室技芸員の実力』5月27日、④『横浜の名窯として』6月10日）
 県博講座 学芸員が推すこの逸品「堆朱鳳凰牡丹文—館蔵の彫漆作品とともに—」6月24日
 県博講座「うるわしき箱—しまい・かざる・日本美術史—」（全4回 ①『箱のしくみとみどころ』7月11日、②『しまい、守る箱』7月25日、③『飾り、しつらえる箱』8月8日、④『祈り、願う箱』8月22日）
- (キ) 館所蔵・保管資料（中世絵画・工芸および近代工芸）と日本美術工芸史に関する調査研究を行った。平成30年度以降の担当特別展のための調査研究・準備を行った。

神野 祐太（学芸員・美術〔彫刻〕）

- (ア)a 「彫刻（仏像・神像）」（薄井和男と共著、『津久井町史』文化遺産編、pp.103-159、2018年3月）
 『神奈川県立博物館・神奈川県立歴史博物館 50年のあゆみ』（編著・神野祐太・千葉 毅、pp.1-152、3月、神奈川県立歴史博物館）
- b 「寶生寺本尊大日如来の像内納入品からわかること」（『横浜の元祖 寶生寺』図録、pp.13、8月）
 「つなぐ、つながる、つなげる—神奈川県博開館51周年記念特別展 つなぐ、神奈川県博—Collection to Connection—」（『神奈川県立歴史博物館だより』207号、千葉毅・新井裕美・橋本遼太・武田周一郎との共著、pp.4-7、2018年2月）
 「神奈川県文化財協会」（『神奈川県立博物館・神奈川県立歴史博物館 50年のあゆみ』、pp.55、2018年3月発行）
- c 「伊勢原市・大山寺の木造不動明王坐像について」（『神奈川県立歴史博物館だより』205号、pp.2-5、6月）
- (ウ) 図録解説「大日如来坐像」（神奈川県立金沢文庫編『横浜の元祖 寶生寺』図録、神奈川県立金沢文庫、8月）
 図録解説「観音菩薩遊戯坐像」（神奈川県立金沢文庫編『唐物—中世鎌倉文化を彩る海の恩恵—』、神奈川県立金沢文庫、11月）
- (エ) 津久井町史編纂委員会 調査執筆員（文化遺産部会）
- (カ)a 仏教美術史研究会「神奈川県立歴史博物館所蔵阿弥陀如来坐像—運慶様式の仏像—」新百合トウエントワンホール研修室、5月18日
 鎌倉国宝館×県立歴史博物館若手学芸員による「愛しの仏像」トーク！「移動する県博の仏像—里帰り、引越し、そして保管—」鎌倉国宝館、6月4日
 仏教美術史研究会「仏像と文化財写真」新百合トウエントワンホール研修室、12月21日
 県立社会教育施設公開講座「運慶研究の現在」神奈川県立歴史博物館所蔵の阿弥陀如来像と慶派仏師」、神奈川県立金沢文庫大会議室、2018年2月10日
- b 県博講座 学芸員が推すこの逸品「阿弥陀如来坐像—運慶様式の仏像—」5月13日
 県博講座「地域から見た神奈川のみほとけ」（全4回①「湘南地域の仏像—海と山と道—」6月6日、②「三浦半島の仏像—仏師運慶の伝説—」6月20日、③「鎌倉周辺の仏像—修理を経て伝えられた仏像たち—」7月4日、④「川崎横浜の仏像—街中の古代彫刻—」7月18日）
 県博講座「大山を深く知る」（全4回のうち②『大山寺の不動明王像』6月15日）
 県博講座「歴史系博物館×自然系博物館」（全5回のうち『彫刻史×植物学』7月6日）
 地域巡回講座「鎌倉国宝館に県博の仏像をみにいこう」、鎌倉国宝館、7月26日
 教員のための博物館講座「鎌倉大仏になってみよう！」7月28日
- c 出張講座「鎌倉の仏像案内」（横浜女学院中学校、5月31日）
 出張講座「鎌倉大仏のひみつ」（寒川町立一ノ宮小学校、6月13日）
 出張講座「鎌倉大仏のひみつ」（相模原中央支援学校、7月10日）
- (キ) 津久井町域の仏像、大山不動の模刻像、神奈川県内の仮面、東京・浅草寺の仏像、東国の神像、瓜生岩子像に関する調査研究をおこなった。

橋本 遼太 (学芸員・美術 [絵画])

- (ア)a 「寶生寺本尊大日如来像に納入された寶生寺所蔵の仏画」(『横浜の元祖 寶生寺』神奈川県立金沢文庫、pp.14-15)
「雪村筆「芙蓉小禽図」についての一考察—団扇から円相への改変をめぐって—」(『畫下遊樂 奥平俊六先生退職記念論文集』pp.49-62、奥平俊六先生退職記念論文集編集委員会、藝華書院)
- b 「つなぐ、つながる、つなげる—神奈川県博開館51周年記念特別展 つなぐ、神奈川県博—Collection to Connection—」(『神奈川県立歴史博物館だより』207号、千葉毅・神野祐太・新井裕美・武田周一郎との共著、pp.4-7、2018年2月)
- (イ) 『横浜の元祖 寶生寺』作品解説 両界曼荼羅ほか9点
- (カ)b 県博講座 学芸員が推すこの逸品「雪村筆『芙蓉小禽図』」4月22日
県博講座「室町水墨と関東水墨」(全4回 ①「筆様制作—かたちの規範」5月16日、②「仲安真康と牧谿—行体の道釈人物画」5月30日、③「芸阿弥と祥啓—夏珪様山水」6月13日、④「雪舟と宗淵—玉潤様山水」6月27日)
県博講座「鎌倉でつくられた絵巻物」(全4回 ①「浄土五祖絵伝」7月8日、②「東征伝絵巻」7月22日、③「頬焼阿弥陀縁起」8月5日、④「箱根権現縁起絵巻」8月19日)
県博講座「歴史系博物館×自然系博物館」(全5回のうち⑤『絵画史×哺乳類学』8月3日)
- c 出張講座「室町絵画の魅力」(今井小学校、6月22日/横浜市立矢向小学校、10月25日)
- (キ) 館所蔵および保管の美術資料(主として中世絵画)に関する調査研究

(近世)

古宮 雅明 (専門員・歴史)

- (ア)c 「松平造酒之助江戸在勤日記—元治元年十月朔日～十一月十日—」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第44号 pp.91-116)
- (カ)a 二宮町民大学講座①「朝鮮通信使の通行と二宮」11月12日、②「富士山宝永噴火と二宮」11月26日)二宮町生涯学習センターラディアン
- b 県博講座「近世古文書入門講座(初級編)」(全4回 ①6月6日、②6月20日、③7月4日、④7月18日)根本学芸員と共催
県博講座「近世古文書入門講座(中級編)」(全4回 ①8月1日、②8月29日、③9月12日、④9月26日)根本学芸員と共催
県博セミナー 第3回「新収蔵資料『相州鎌倉之図』について」9月16日
- c 出張講座「バーチャル東海道」(県立相模原中央支援学校、7月11日/相模原市立南大野小学校、7月14日/横浜市立芹が谷小学校、10月12日/川崎市立幸町小学校、10月31日)
- (キ) 松平造酒之助江戸在勤日記の解説、新収蔵資料「相州鎌倉之図」の解説を進めた。

根本 佐智子 (非常勤学芸員・歴史)

- (ア)a 「川崎宿復元の試み」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第44号、pp.35-50)
- c 「松平造酒之助江戸在勤日記—元治元年十月朔日～十一月十日—」(『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第44号、pp.91-116)
- (カ)a 地名塾講座「地図入門講座 地名の宝庫地図を読み解く」第4回「江戸時代の村絵図を見る—川崎の村を中心に—」(地名資料室 てくのかわさき4階展示場、2018年2月20日)
- b 県博講座「近世古文書入門講座(初級編)」(全4回 ①6月6日、②6月20日、③7月4日、④7月18日)古宮専門員と共催
県博講座「近世古文書入門講座(中級編)」(全4回 ①8月1日、②8月29日、③9月12日、④9月26日)古宮専門員と共催
- c 出張講座「絵図で見る江戸時代」(横須賀市立野比小学校、7月10日/川崎市立中原中学校、10月21日)
- (キ) 松平造酒助江戸在勤日記の解説、近世多摩川における御留川についての研究。旧高田領取調帳を利用した江戸時代末期の村パネル製作など、常設展示テーマ3リニューアルに向けた準備を行った。

桑山 童奈 (主任学芸員・美術)

- (ア)a 「神奈川県立図書館蔵〈横浜風景画帖〉にみる版元和泉屋市兵衛の横浜進出」 (『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第44号、pp.21-34)
- (ウ) 「丹波コレクションのなかの月岡芳年」 (『【丹波コレクションの世界II】歴史×妖×芳年 “最後の浮世絵師” が描いた江戸文化』横浜市歴史博物館、pp.6-8)
- (エ) 「浮世絵は19世紀のクールジャパン」 (『マイウェイ』No.105、pp.2-3)
- (オ) 国際浮世絵学会理事・企画委員、藤沢市藤澤浮世絵館運営委員、公益財団法人氏家浮世絵コレクション評議員
- (カ)a 特別講演会「金沢八景の浮世絵」 (神奈川県立金沢文庫、4月16日)
横須賀市民大学「幕末の浮世絵 活躍する国貞・国芳たち」 (横須賀市生涯学習センター、8月20日)
「(丹波コレクションの世界II 歴史×妖×芳年) スペシャル展示解説」 (横浜市歴史博物館、8月26日)
資料紹介講座「浮世絵にみるヨコハマ」 (神奈川県立図書館、10月21日)
資料紹介講座「浮世絵にみる文明開化」 (神奈川県立図書館、11月18日)
- b 県博講座 学芸員が推すこの逸品「月岡芳年の浮世絵」5月27日
県博講座「大山を深く知る—古代から現代まで」 (全4回のうち①『浮世絵にみる大山詣』6月1日)
県博講座「月岡芳年と明治の浮世絵」 (全4回 ①『月岡芳年の世界』7月11日、②『小林清親・豊原国周の魅力』7月25日、③『浮世絵にみる明治事件史』8月8日、④『横浜市歴史博物館見学会』8月22日)
博物館体験教室「目指せ江の島・浮世絵でめぐる東海道の旅」 (全4回 ①8月25日、②9月24日 各午前・午後)
- c 出張講座「浮世絵の謎にせまる」 (厚木市立依知南小学校、10月30日)
- (キ) 2019年4月から6月に開催予定の「横浜浮世絵」展に向けての準備と科学研究費の分担者となっている大小暦についての研究。

(近代)

嶋村 元宏 (主任学芸員・歴史)

- (ア)b 「佐野真由子著『幕末外交儀礼の研究 欧米外交官たちの将軍拝謁』」【書評と紹介】 (『日本歴史』832号)
「学芸員、学校へ行く—出張講座という博学連携—」 (『神奈川県立歴史博物館 博物館だより』通巻206号 第23巻2号、pp.7-8)
「博物館資料を活用した歴史体験プログラムの研究について—「地域素材の教材化」考—」研究ノート (『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』第44号、pp.71-80)
「再開/再会までの698日」 (『神奈川県立歴史博物館 博物館だより』通巻207号 第23巻3号、pp.2-3)
- (イ) 「阿部家資料における『和蘭別段風説書』について」2017年度 青山学院大学研究プロジェクト「別段風説書の研究」公開研究会、青山学院大学 (渋谷キャンパス)、6月30日
「阿部家資料における別段風説書：朱書きの意味を探る」2017年度 青山学院大学研究プロジェクト「別段風説書の研究」公開研究会、青山学院大学 (渋谷キャンパス)、2018年2月9日
- (エ) 「それぞれの50年 近代・歴史分野の50年」 (p.36) / 「担当者の一言」 (pp.98、101、104) / 「colum 2016年~2017年に実施した空調設備改修工事について」 (p.118) 『神奈川県立博物館・神奈川県立歴史博物館 50年のあゆみ』神奈川県立歴史博物館編・刊、2018年3月31日
- (カ)a 福山城博物館歴史講座「開国への決断—老中 阿部正弘の選択—」ふくやま文学館、2018年1月21日
多摩美術大学公開講座2017 生涯学習プログラム 連続講座 美術と文化VII：16世紀—1第16回「南蛮貿易の門戸—邂逅のまなざし」中町ふれあいホール (東京都世田谷区)、2018年1月27日

- b 県博講座「横浜開港とペリー」（全4回 ①『異国船の出現と三浦半島の海防』4月2日、②『アヘン戦争とペリー来航予告』4月9日、③『アジアの中の日本開国』4月16日、④『横浜開港の世界史的意義』4月23日）
県博講座「描かれたペリー来航」（全4回 ①『ペリーを見た者たち』4月13日、②『二つの《金海奇観》』4月27日、③『夷狄としてのペリー』5月9日、④『流布するペリーの肖像』5月25日）
- c 出張講座「欧米人の見た幕末・明治の日本」（桐蔭学園中学校、5月15日）
出張講座「異国人が旅した幕末維新期のかながわ」（宮ヶ瀬小・中学校、6月12日）
出張講座「《文化》の衝突」（戸塚高等学校、6月14日）
出張講座「ペリーからの贈り物」（秦野曾屋高等学校、9月15日）
出張講座「横浜はじめて物語」（藤沢市立滝の沢小学校、10月16日）
- (キ) 歴史研究面においては、「19世紀中葉の国際秩序の変容」をメインテーマに研究を継続した。特に、2019年度に予定している特別展「北からの開国」の準備作業として、北方史を意識しつつ、江戸時代後期からの日露関係資料を中心に調査研究を進めた。また、特に今年度は、公益財団法人日本海事科学振興財団・船の科学館が実施する「海の学び ミュージアムサポート」のなかのプログラム3「海の学び調査・研究サポート」の支援を得て、「開国をテーマとする『海の学び』学習支援プログラムの開発に関する基礎的研究」を実施したのに加え、博学連携の実践に基づく研究を深めた。さらに、博物館学全般における研究動向の把握に努めた。

丹治 雄一（主任学芸員・歴史）

- (ア)a 「『石展』からみえてきたもの—『兄弟館』による2回の共催展示の開催報告—」（山下浩之と共著、『神奈川県博物館協会会報』第89号、神奈川県博物館協会、pp.27-30、2018年3月）
- b 「新刊紹介 千葉県企業土地管理局発行『千葉県企業庁事業の軌跡』本編・別編」（『千葉史学』第71号、千葉歴史学会、pp.96-98、11月）
「空調工事で『再発見』！ 旧横浜正金銀行本店本館の魅力（その2）」（『神奈川県立歴史博物館だより』通巻206号、神奈川県立歴史博物館、pp.4-6）
- (イ) 横浜近現代史研究会「近代洋風建築に使用された神奈川県産石材『白丁場石』の歴史」横浜開港資料館、12月23日）
- (ウ) 首都圏形成史研究会常任委員
- (カ)a 相模原市立大野台公民館第22回歴史講座講師（全4回のうち ①「旧横浜正金銀行本店本館と日本の近代建築」相模原市立大野台公民館、9月22日、②「かながわの近代建築と近代化遺産—貿易・軍事・工業関係など—」相模原市立大野台公民館、9月29日、④「フィールドワーク」横浜関内地区など、10月13日）
2017年つるみ歴史講座第5回講師「横浜に始まる日本ビール産業の歴史」鶴見中央コミュニティハウス、10月11日
- b 県博講座「神奈川の近代化遺産」（全4回のうち①『かながわの近代化遺産—貿易・工業からのリゾート・軍事まで—』、4月13日）
県博講座「歴史系博物館 VS 自然系博物館」（全5回のうち①『近代史×地質学・岩石学』、6月8日）
県博講座「かながわの近代産業史Ⅱ」（全4回 ①『鉄道業—鉄道発祥の地での鉄道網の整備』8月17日、②『京浜工業地帯の形成と重化学工業化の進展』8月31日、③『ビール醸造業—横浜に始まる発展の歴史』9月14日、④『現地見学会 日本ビール産業発祥の地をめぐる』9月28日）
建物見学会「旧横浜銀行本店と横浜の銀行建築をめぐる」4月15日
建物見学会「横浜正金銀行本店と横浜関内の近代建築をめぐる・『エースのドーム』と横浜三塔をめぐる」8月21日
建物見学会「横浜正金銀行本店と横浜関内の関東大震災復興建築をめぐる」9月1日
博物館体験教室「大人の工場見学—キリンビール横浜工場—」1月10日
- c 出張講座「博物館・学芸員の仕事」（湘南白百合学園中学校、5月2日）

- (キ) ここ数年力を入れている石材産業史関係では、当館建物（旧横浜正金銀行本店）にも使用されている足柄下郡湯河原町産の石材「白丁場石」の神奈川県外での使用事例の調査等を行った。また、当館建物に関わる調査として、空調設備等改修工事期間中に床スラブ等の確認調査を実施し、2階の2室に銀行当時に設置したと考えられる金属天井が残存していることを発見し、当該金属天井設置の経緯を明らかにすべく、関係資料の分析なども行った。

角田 拓朗（主任学芸員・美術）

- (ア) a 「総合研究成果報告書 岩橋教章・章山に関する総合的研究」（神奈川県立歴史博物館、pp. 1-200、12月）
「科学研究費成果報告書 明治期図画手工教科書データベース構築に向けての基礎的研究」（岡山大学・神奈川県立歴史博物館、pp. 1-288、2018年3月）
- (イ) 大手前大学比較交流文化史シンポジウム「明治初期留学生とフランス—五姓田義松の場合—」大手前大学、12月
- (ウ) 「五姓田義松 人形の着物」（『国華』1467、朝日新聞出版、pp. 13-16、2018年1月）
- (エ) 「神奈川県博物館協会総合防災計画について」（『かながわ文化財』113、神奈川県文化財協会、pp. 17-21、5月）
「ワーグマンが見た幕末・明治」（『季刊横濱』59号、神奈川新聞社、pp. 37-40、12月）
「神奈川県博物館協会総合防災計画について」（『神奈川県博物館協会会報』89、神奈川県博物館協会、pp. 53-55、2018年3月）
- (オ) 松戸市美術品等選定委員会委員
- (カ) a 「近代日本美術の成立と明治の洋画」芸術学舎「明治、このフシギな時代」、京都造形芸術大学東京キャンパス、7月
岡倉天心市民研究会「美術雑誌『国華』と岡倉天心」菊名地区センター、11月
日本博物館協会「神奈川県博物館協会の総合防災計画」静岡県立美術館、2018年2月
江東区文化コミュニティ財団「伊東深水と新版画」江東区森下文化センター、2018年3月
- b 県博講座「神奈川の近代美術」（全4回 ①「日本画① 鏑木清方」5月16日、②「洋画① 横浜絵」5月30日、③「日本画② 日本美術院」6月13日、④「洋画② 草土社」6月27日）
博物館入門講座「学芸員の技」8月26日
- c 出張講座「博物館・学芸員の仕事」（南ヶ丘小学校、5月26日）
- (キ) 当館総合研究、科学研究費による調査研究以外には、平成30年度開催の明治美術に関わる作品の資料調査を中心に実施した。

(現代)

武田 周一郎（学芸員・歴史）

- (ア) a 「昭和初期の首都圏における御用邸の再編 初声御用邸計画に注目して」（『年報首都圏史研究』2016（6号）、pp. 15-34、5月）
「地図史上における岩橋教章と岩橋章山」（神奈川県立歴史博物館編・発行『岩橋教章・章山に関する総合的研究』〔研究代表：角田拓朗〕、pp. 27-38、12月）
- b 「神奈川県博開館50周年記念プロジェクト、始動！」（『神奈川県立歴史博物館だより』205号、千葉毅・神野祐太・新井裕美・橋本遼太・丹治雄一・大島理加・野島愛子・伊藤友久・村野井聡との共著、pp. 6-7、6月）
「つなぐ、つながる、つなげる—神奈川県博開館51周年記念特別展 つなぐ、神奈川県博—Collection to Connection—」（『神奈川県立歴史博物館だより』207号、千葉毅・神野祐太・新井裕美・橋本遼太との共著、pp. 4-7、2018年2月）
「銀行から博物館へ—神奈川県立博物館」、
「人文系博物館として—神奈川県立歴史博物館」、
「現代（それぞれの50年 学芸部）」（神奈川県立歴史博物館編・発行『神奈川県立博物館・神奈川県立歴史博物館 50年のあゆみ』、pp. 22-25、26-28、38、2018年3月）
- (イ) 歴史地理学会大会「御用邸と景観変化—昭和初期の初声御用邸計画における立木調査と植樹について—」愛知教育大学、6月17日

歴史地理学会例会「地図と美術—印刷技術者・岩橋教章と岩橋章山を中心に—」東京学芸大学、2018年3月3日

- (ア) 首都圏形成史研究会常任委員、歴史地理学会集会委員（2017年6月～）
- (カ) 県博講座「歴史系博物館×自然系博物館」（全5回のうち②『現代史・歴史地理学×画像解析学』6月22日）
県博講座 学芸員が推すこの逸品「神奈川県鳥瞰図」（7月15日）
県博講座「神奈川の現代史を読む」（全4回 ①『関東大震災の記憶』8月1日、②『昭和初期の神奈川県鳥瞰図』8月29日、③『都市化の様相』9月12日、④『高度成長の時代』9月26日）
県博講座「県博と馬車道のあゆみ」（全4回 ①『神奈川県博の50年』8月17日、②『横浜正金銀行の67年』8月31日、③『横浜正金銀行の人々』9月14日、④『馬車道の150年』9月28日）
博物館入門講座「学芸員の日 神奈川県鳥瞰図を観じる」8月19日
- 出張講座「地図や空中写真を読む」（横浜女学院高等学校、7月3日/横浜女学院中学校、9月7日）
出張講座「東京オリンピックと神奈川」（川崎市立東高津小学校、10月5日）
- (キ) 主に館蔵現代資料に関する調査に取り組むとともに、昭和初期における初声御用邸計画の動向や、地図印刷技術者の岩橋教章と岩橋章山について成果をまとめた。

(民俗)

新井 裕美（学芸員）

- (ア) a 「霊山と墓地—日金山霊園と富士霊園を例にして—」（『霊山信仰の地域的展開—死者供養の山と都市近郊の霊山—』、岩田書院、pp.111-134）
「神奈川県内の高遠石工の活動—江戸時代中期から明治時代末期における石造物の造立状況—」（『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』44号、pp.61-70）
- b 「つなぐ、つながる、つなげる—神奈川県博開館51周年記念特別展 つなぐ、神奈川県博—Collection to Connection—」（『神奈川県立歴史博物館だより』207号、千葉毅・神野祐太・橋本遼太・武田周一郎との共著、pp.4-7、2018年2月）
- (カ) 成城大学民俗学研究所「霊山と民俗信仰」共同研究員、大磯町国府祭町委託調査員、相模民俗学会運営委員
- (キ) a 「七沢石の特徴と歴史について」（厚木市立玉川公民館、10月24日）
b 県博講座「神奈川の年中行事」（全4回 ①『春の行事』4月11日、②『夏の行事』4月25日、③『秋の行事』5月9日、④『冬の行事』5月23日）
県博講座「大山を深く知る—古代から現代まで」（全4回のうち④『大山と庶民信仰』7月13日）
博物館体験教室「『背守り』—子どもの健やかな成長を願うもの—」9月11日
- (ク) 平成30年度特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」にかかる祭礼調査を実施した。また、県内の年中行事、死者供養、他界観に関する継続的な研究及び、館蔵の民俗資料の整理を行った。

三浦 麻緒（非常勤学芸員）

- (カ) b 県博講座「かながわの人生儀礼」（全4回 ①『産育儀礼』6月7日、②『婚姻儀礼』6月22日、③『厄年と年祝い』7月6日、④『葬送儀礼』7月20日）
体験教室「張り子のだるまを作ろう」（8月7日）
- (キ) 館所蔵の民俗資料の整理。「相模原市（旧津久井郡）の農村歌舞伎」の調査研究と、平成30年度開催の特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」に関する調査研究を行った。

4 資料収集・修理・保管・利用

〈凡例〉

ア 購入、 イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換、 ウ 修理、 エ 貸出、 オ 特別利用、 カ その他

(1) 考古資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換
(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	壺（神奈川県立横須賀高等学校裏山遺跡）他	平成7年2月10日	-	1件3点
合計				1件3点

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	三浦市間口洞窟遺跡出土品	横浜市歴史博物館・テーマ展「ハマっ子、三浦半島をゆく」	展示	6月21日～7月17日	1件235点
2	三浦市間口洞窟遺跡出土品	横浜市歴史博物館・企画展「横浜に稲作がやってきた!？」	展示	9月16日～11月12日	1件10点
3	三浦市間口洞窟遺跡出土 鏃形牙器	横浜市歴史博物館・ミニ展示「サメ歯製漁具」	展示	1月30日～3月31日	1件1点
4	小林幸雄氏コレクション	横浜市鶴見区役所・横浜市末吉地区センター1Fロビーでの展示・地域の文化財に対する啓発	展示	4月1日～3月31日	1件72点
5	鼠坂遺跡出土 弥生式土器	相模原市立博物館・常設展示	展示	平成28年6月1日～平成30年3月31日	1件1点
合計					5件319点

(2) 歴史資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	相州鎌倉之図	手描きの鎌倉絵図。17世紀中頃に成立したと推定される絵図の写し。	紙・淡彩 縦104cm×横115cm	1件1点
合計				1件1点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(原始取得)

No.	資料名	取得理由	取得年月日	数量
1	石川組本社建物躯体煉瓦	神奈川県庁新庁舎敷地から出土	平成30年1月10日	1件3点
合計				1件3点

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	小山保一関係資料	個人（神奈川県在住）	平成29年8月21日	23件26点
2	支那事変軍馬徴発表彰木杯 他	個人（東京都在住）	平成29年8月21日	3件15点
3	スキー板 他	個人（神奈川県在住）	平成29年11月22日	6件6点
4	横浜市水道の消火栓 他	個人（神奈川県在住）	平成30年1月10日	13件13点
5	坂本家文書	個人（神奈川県・大阪府在住）	平成30年3月9日	1件1,080点

6	分島藤吉関係資料	個人（岡山県在住）	平成30年3月19日	36件47点
合計				82件 1,187点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量	
1	帝政ロシア製32ポンド砲(旧居留地90番出土の大砲)	平成16年2月1日	1件1点	
2	長谷川氏所蔵文書	平成23年2月17日	1件22点	
3	岩松家文書	平成25年2月1日	210件350点	
合計				212件373点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	烏帽子形兜	昭和43年10月22日	-	1件1点
2	古瀬戸瓶子	昭和45年9月1日	-	1件1点
3	刀片(三増合戦場出土)	昭和47年6月10日	-	1件1点
4	関山家文書	昭和47年9月8日	-	1件24点
5	久崎家資料	昭和47年9月13日	-	1件197点
6	瀬戸 四耳壺 他	昭和48年7月1日	-	1件3点
7	渥美 灰釉壺 他	昭和48年10月1日	-	1件6点
8	本多家文書	昭和49年3月1日	-	1件953点
9	御用取締りのぼり	昭和49年4月26日	-	1件1点
10	嘆願書	昭和52年3月23日	-	1件1点
11	生麦村新地実測図(神奈川県令中島信行宛)	昭和52年12月1日	-	1件5点
12	舊荻野山中建物之繪図 他	昭和53年12月1日	-	1件19点
13	寺井家文書	昭和55年2月15日	-	1件16点
14	散弾銃	昭和55年4月1日	-	1件1点
15	羽柴秀吉知行充行状 天正十一年六月五日付	昭和58年5月20日	-	1件1点
16	平本家文書	昭和58年10月14日	-	1件1,309点
17	黒船来航絵巻	平成4年5月15日	-	1件1点
18	日月鳳凰螺鈿鞍	平成4年11月1日	-	1件1点
19	旧小田原城天守閣模型	平成5年12月15日	-	1件1点
20	辰御年貢可納割付之事 他	平成6年7月20日	-	1件2点
21	享保十四年九月酉之内検見引牒 他	平成6年10月7日	-	1件22点
22	中国青磁碗 線描き蓮弁文 他	平成18年6月1日	-	1件50点
23	茅ヶ崎市出土板碑関係(梵字板碑、破片)	平成20年7月1日	-	1件4点
24	旧横浜正金銀行本店本館改修工事関係資料 一括	平成20年9月1日	-	1件1点
25	旧横浜正金銀行本店本館彩色立面図 他	平成22年10月15日	-	1件119点
26	銅造 明治天皇立像 他	平成23年12月15日	-	1件3点
合計				26件 2,743点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	桜井家文書	全19通の内、17通を実施。	1件17点

(3) 美術資料

ア 購入

No.	資料名	概要	規格・寸法	数量
1	横浜焼カップアンドソーサー	木製収納箱に、山水花鳥人物図カップアンドソーサー（井村彦次郎商店）、富士合戦図カップアンドソーサー（中島則親製造）の2種のカップアンドソーサーを収める。	収納箱：木製、高 34.2 cm×横 41.6 cm×奥行 26.1 cm	1件20点
合計				1件20点

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	井上信道裸婦（銅像）	個人（神奈川県在住）	平成29年5月1日	1件1点
2	鈴木其一筆 鯉図	個人（神奈川県在住）	平成29年8月24日	1件1点
3	盆景	個人（神奈川県在住）	平成29年8月29日	1式
4	雲鶴青磁意花瓶 眞葛窯	個人（神奈川県在住）	平成30年3月28日	1件1点
合計				4件4点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	重要文化財 木造他阿真教坐像	平成17年5月24日	1件1点
2	束帯天神像 他	平成21年4月24日	9件9点
3	祖栄筆 柳に鷺図 他	平成21年8月1日	27件36点
4	眞葛焼（渡蟹水盤 他）	平成22年3月1日	29件38点
5	潘閔図右都御史筆	平成25年7月2日	1件1点
6	阿羅漢図 他	平成25年12月1日	2件3点
7	齋藤俊吉氏旧蔵作品群	平成27年6月18日	1件63点
8	仁阿弥道八作焼締急須	平成27年6月26日	1件9点
9	一遍他阿真教像 他	平成28年3月25日	1件2点
10	山崎勢威子肖像	平成28年4月1日	1件1点
11	高橋広湖筆 松	平成28年5月20日	19件19点
12	絵瀬戸草文輪花皿 他	平成28年6月24日	7件49点
13	初代五姓田芳柳 果物之図	平成29年3月1日	1件1点
14	大森氏所蔵作品	平成29年3月1日	37件37点
15	鬮鶏下絵（下村観山） 他	平成29年5月1日	11件14点
16	二世五姓田芳柳 静岡製茶絵図	平成29年9月22日	1件1点
17	伝大吉祥菩薩立像	平成29年12月1日	1件1点
18	伝聖徳太子立像	平成29年12月1日	1件1点
合計			151件286点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	県重要文化財 紙本墨画淡彩 十六羅漢図 他	昭和44年3月1日	-	2件17点
2	県重要文化財 絹本着色 熊野 権現影向図	昭和44年3月1日	-	1件1点
3	県重要文化財 絹本着色 両界 曼荼羅図 他	昭和44年7月1日	-	1件37点
4	常滑印花文壺 他	昭和48年3月1日	-	1件12点
5	東海道図屏風	昭和49年7月1日	-	1件1点
6	源氏物語図屏風	昭和50年3月10日	-	1件1点
7	絹本着色 七星如意輪曼荼羅図 他	昭和50年6月1日	-	1件25点
8	横浜浮世絵	昭和52年1月10日	-	1件473点
9	張交屏風	昭和52年7月15日	-	1件1点
10	県指定重要文化財 木造薬師如 来坐像	昭和56年2月25日	-	1件1点
11	大小暦コレクション(長谷部コ レクション)	昭和59年4月1日	-	1件40点
12	双六(下村観山)	昭和59年7月1日	-	1件1点
13	鴉図(以天宗清) 他	昭和63年7月7日	-	1件2点
14	短刀(チャールズ・ワグマン所 用)	平成2年8月25日	-	1件1点
15	江島金沢八景図屏風 他	平成4年12月1日	-	1件4点
16	本牧風景 他	平成5年6月15日	-	1件2点
17	鶴岡八幡宮境内出土品の内 板 草履の芯 他	平成7年3月1日	-	1件19点
18	仁清意鶏形香合 他	平成12年3月1日	-	1件3点
19	俵藤太絵巻	平成12年5月1日	-	1件5点
20	好色十二候 他(喜多川歌麿)	平成12年12月20日	-	1件12点
21	箱根権現縁起絵巻 付 納入箱	平成13年8月1日	-	1件2点
22	闘鶏下絵(下村観山) 他	平成21年3月1日	平成29年4月30日(5月1日 から寄託受入)	1件3点
23	賀茂真淵筆 伊勢物語古意6冊 他	平成28年9月20日	-	12件19点
24	海景図(五姓田義松)	平成29年2月15日	平成30年3月31日	1件1点
合計				36件683点

ウ 修理

No.	資料名	(備考)	数量
1	脇差	(赤羽刀No.1096、官報No.1158、銘「相州鎌倉住園秀作」、江戸時 代末期)	1振
2	脇差	(赤羽刀No.8125、官報No.2147、銘「相州住綱廣」、室町時代末期)	1振
3	阿弥陀二十五菩薩来迎図		1幅

エ 貸出

No.	資料名	申請者・目的	利用方法	利用期間	数量
1	源頼朝袖判下文	栃木県立博物館 開館 35 周年特別企画展「中世宇都宮氏一頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族一」	展示	平成 29 年 9 月 16 日 ～10 月 29 日	1 件 1 点
2	一遍上人像	栃木県立博物館 開館 35 周年特別企画展「中世宇都宮氏一頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族一」	展示	平成 29 年 9 月 16 日 ～10 月 29 日	1 件 1 点
3	足利尊氏像	栃木県立博物館 開館 35 周年特別企画展「中世宇都宮氏一頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族一」	展示	平成 29 年 9 月 16 日 ～10 月 29 日	1 件 1 点
4	伝源頼朝坐像（複製）	栃木県立博物館 開館 35 周年特別企画展「中世宇都宮氏一頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族一」	展示	平成 29 年 9 月 16 日 ～10 月 29 日	1 件 1 点
5	牡丹文大香合 他	鎌倉彫資料館 特別展「鎌倉彫の仏具」	展示	平成 29 年 10 月 17 日 ～12 月 17 日	16 件 16 点
6	阿弥陀如来坐像	神奈川県立金沢文庫 特別展「運慶一鎌倉幕府と靈験伝説一」	展示	平成 30 年 1 月 13 日 ～3 月 11 日	1 件 1 点
合計					21 件 21 点

(4) 民俗資料

イ 原始取得・寄贈・寄託・借用・管理換

(寄贈)

No.	資料名	寄贈主	寄贈年月日	数量
1	庚申講道具	栄区田谷町庚申講	平成 29 年 8 月 25 日	1 件 13 点
2	石工道具	個人（神奈川在住）	平成 29 年 8 月 25 日	1 件 2 点
合計				2 件 15 点

(寄託)

No.	資料名	当初寄託年月日	数量
1	ダイカイ 他	平成 27 年 5 月 14 日	2 件 3 点
合計			2 件 3 点

(借用)

No.	資料名	当初借用年月日	返却年月日	数量
1	神楽面 他	昭和 44 年 12 月 11 日	-	1 件 151 点
2	お食初め膳 他	昭和 46 年 10 月 23 日	-	1 件 3 点
3	燭台	昭和 47 年 3 月 6 日	-	1 件 1 点
4	長持 他	昭和 47 年 3 月 6 日	-	1 件 2 点
5	お歯黒さし 他	昭和 47 年 3 月 8 日	-	1 件 2 点
6	お歯黒の道具	昭和 47 年 3 月 11 日	-	1 件 1 点
7	ミノ	昭和 47 年 7 月 11 日	-	1 件 2 点
8	天狗の面 他	昭和 48 年 2 月 27 日	-	1 件 3 点

9	帳場格子 他	昭和48年3月2日	-	1件15点
10	結納樽	昭和48年4月1日	-	1件1点
11	お馬板、ツノダル	昭和48年8月20日	-	1件3点
12	鏡台と鏡 他	昭和49年4月26日	-	1件4点
13	張子面木型	昭和51年6月19日	-	1件7点
14	獅子頭 他	昭和54年3月1日	-	1件11点
15	婚礼用具	昭和54年3月1日	-	1件1点
16	足踏み脱穀機	平成6年4月15日	-	1件2点
17	渡辺紳一郎時計コレクション	平成28年7月1日	-	1件22点
合計				17件231点

(5) 写真資料

平成29年度写真撮影資料

ア 特別展図録用

(ア) つなぐ、神奈川県博

(イ) 鎌倉ゆかりの芸能と儀礼（瀬戸神社の湯立神楽、八雲神社例大祭、御霊神社の面掛行列、山北のお峰入り）

イ コレクション展示用

(ア) なし

ウ 特別陳列用

(ア) なし

エ その他

(ア) (公社)川崎・砂子の里資料館収蔵 浮世絵

(イ) 神奈川県立図書館収蔵 浮世絵

(ウ) 三代歌川広重 下絵画稿集

(エ) 寄託資料 森氏工芸品

(オ) 寄託資料 橘氏旧蔵美術資料

(カ) 寄託資料 阿部家資料

(キ) 横浜市歴史博物館 企画展「歴史×妖×芳年」出品浮世絵

(ク) 民俗調査 「鷺の舞」「座問答の虎皮」「農歌舞伎の舞台」

(ケ) 民俗行事 「鶴見の田祭り」「相模国府祭」「瀬戸神社の湯立神楽」「八雲神社例大祭」「御霊神社の面掛行列」「山北のお峰入り」「大磯の左義長」「秦野の道祖神祭」「山北の道祖神祭」

(6) 資料の燻蒸等

IPM(総合的病害虫管理 Integrated Pest Management)に基づき、日常的には「予防」の観点から資料保存活動を進めている。年に2回、文化財害虫調査ならびに空中浮遊菌調査を実施し、文化財害虫の生息状況やカビの発生危険度の把握に努めている。

本年度は、空調設備等改修工事後の1月に展示室と資料の環境整備のため、展示室を中心に燻蒸を実施した。

(7) その他の資料

ア 図書

平成29年度図書資料の状況は次のとおりである。大学等の関係機関からの寄贈も多く、当館の貴重な資料として活用されている。

受入種別	購入	寄贈	計	総数	ライブラリー公開数
図 書(冊)	2	459	461	20,186	4,457
図 録(冊)	0	416	416	15,678	36
逐次刊行物(タイトル)	22	30	52	3,902	82

※逐次刊行物はタイトル数で、寄贈は新規のみの数値。

イ 写真

展示・調査研究資料として、収蔵資料を中心に撮影したフィルム 119,558 枚とデジタルカメラデータ 19,923 枚を保存し、データベース化するとともに、写真の特別利用として貸出しを行っている。

特別利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
件数	13	14	17	29	18	20	15	12	12	14	23	23	210
点数	16	107	110	218	31	34	39	64	15	18	42	65	759

ウ 情報システム

(ア) システム整備の目的と背景

- a 学習の支援
- b 高度な知的ニーズへの対応
- c 博物館活動の活性化、効率化
- d 研究活動の高度化
 - (a) 各種アプリケーションの利用
 - (b) 博物館が所有する情報の活用
- e 情報公開

博物館の再編整備の方向（「県立博物館整備構想に関する提言」昭和63年度）
(1) 高度情報化社会における自然・文化の情報センター
(2) 映像資料等、新しい形態の資料の収集・保存と活用の拠点
(3) 内外の博物館、学習文化施設等とのネットワークの拠点

(イ) システム開発と運用

- a システム基本設計・詳細設計 平成5年度
- b システム運用開始 平成7年度
- c システム更新 平成13年度、18年度、23年度、28年度

No.	タイトル	内容
1	浮世絵	博物館所蔵の約7,000点ある浮世絵の中から、浮世絵の歴史、神奈川を描いた浮世絵、横浜浮世絵、著名な浮世絵師たち、一枚の絵から見る江戸時代の風俗など、テーマごとに選択した230点の浮世絵を紹介。
2	絵馬	神奈川県でよく見ることが出来る絵馬や珍しい絵馬など125点を紹介。
3	関東大震災	震災時の惨状等を伝える写真資料70点を紹介。
4	古地図・絵地図	当館収蔵の古地図の中から50点を紹介。館内端末では拡大画像により、細部まで見ることが可能。
5	水墨画	平成10年度に開催した水墨画の特別展に出品された作品の中から代表的な作品85点を紹介。
6	横浜正金銀行	かつて世界三大為替銀行の一つに数えられた横浜正金銀行の写真資料221点を紹介。
7	眞葛焼	かつて世界に名を知られた横浜の焼き物の中から46点を紹介。
8	鎌倉彫	館蔵品の鎌倉彫の中から32点を紹介。
9	後北条氏関係文書	戦国大名北条氏の多様な文書の世界を人物などとともに118点を紹介。
10	東海道分間絵図	東海道の情景を描いた道中案内記(1件5冊)を紹介。拡大画像により、細部まで見ることが可能。
11	県有形民俗文化財 職人の道具コレクション	神奈川県指定有形民俗文化財「神奈川の職人の道具コレクション」(17職種1,982点)のうち、大山木地師、小田原物差職人、下駄職人、傘職人の道具など、338点を紹介。

12	収蔵コレクション	収蔵データベースの一部について、概要を一覧形式で提供する。 考古：206点、中世文書96点、彫刻：14点、中世絵画80点、 浮世絵：288点、近代歴史資料260点、近代絵画156点、民俗306 点
※この他に、神奈川県立生命の星・地球博物館が作成・提供している「神奈川の自然」 「恐竜」「酒井コレクション細密画」「図書・雑誌検索」も閲覧が可能		

(ウ) 稼動しているシステム（「デジタルミュージアム」）の内容

a 展示情報システムの内容

ミュージアムライブラリーに設置された2台の来館者用パソコンで提供。一部の資料については、高精細の拡大画像も提供。従来、館内利用に限定されていた展示情報システムは、当館のホームページに掲載され、利用者が自宅や学校で閲覧可能(タイトルのうち、No2 絵馬、No5 水墨画、No.12 収蔵コレクションは除く)。

b 業務システムの内容

(a) 収蔵資料管理システム：収蔵品管理機能、画像登録機能、受入管理機能、特別利用管理運用機能、各種帳票ラベル出力機能

(b) 図書文献管理システム

(エ) システム構成

a 概要

(a) サーバ用OS：Red Hat Enterprise Linux、Windows Server

(b) クライアント用OS：Windows8.1、macOS

b 設置機器

(a) 情報処理室・電源室

収蔵システムサーバ 1台、Webサーバ 1台、展示情報用サーバ 1台、アップデートサーバ 1台、図書サーバ 1台、CMSサーバ 1台、作業用パソコン 2台

(b) ミュージアムライブラリー

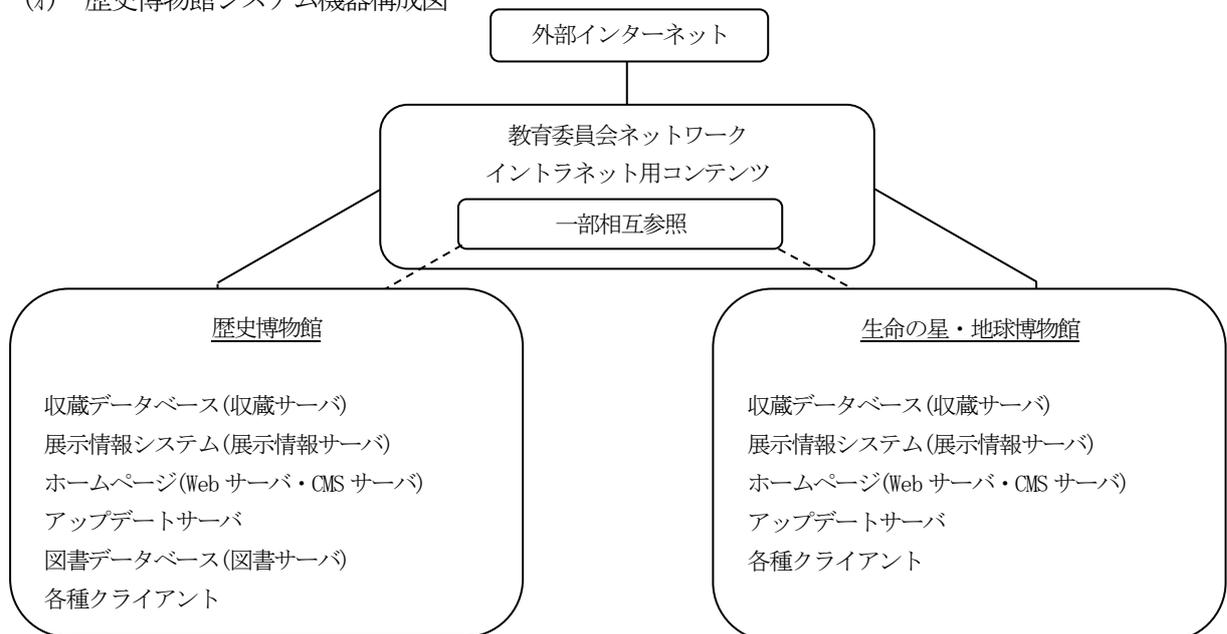
来館者用パソコン 2台、レファレンス用パソコン 2台

(c) 展示機材倉庫（印刷室）

画像入力用パソコン 2台

(d) 学芸部室・学芸部各資料整理室・管理課室・企画情報部室・図書資料整理室・写真室・暗室
各室作業用パソコン 計38台

(オ) 歴史博物館システム機器構成図



(カ) 歴史博物館ホームページ アクセス件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
HP	53,510	50,690	48,106	50,264	54,835	41,964	41,228	39,004	39,122	42,090	35,591	65,002	561,406

参考(内数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
デジタル ミュージアム	2,052	2,021	2,027	1,988	1,912	1,921	1,807	1,983	1,524	1,795	1,589	1,717	22,336

5 展示・教育普及・学習支援

(1) 常設展

平成28年6月1日からの空調設備等の改修工事のため、展示事業を一時休止。

(2) 特別展

平成28年6月1日からの空調設備等の改修工事のため、展示事業を一時休止。

(3) その他の展示

ア フリーゾーンにおけるパネル展示

平成28年6月1日からの空調設備等の改修工事のため、展示事業を一時休止。

イ 共催企画展

- (ア) 題 名：【丹波コレクションの世界Ⅱ】歴史×妖×芳年 “最後の浮世絵師” が描いた江戸文化
- 会 期：平成29年7月29日(土)～8月27日(日)
- 会 場：横浜市歴史博物館
- 主 催：横浜市歴史博物館
- 協 力：神奈川県立歴史博物館
- 展示資料点数：77点
- 担 当：主任学芸員 桑山 童奈
- 概 要：当館丹波コレクションから「最後の浮世絵師」と呼ばれる月岡芳年の作品を紹介した。

○出品作品 〈凡例〉No. 資料名 作者 時代 形状資料名

1 大蘇芳年像 金木年景 明治25年(1892) 大判錦絵	23年(1890) 大判錦絵3枚続
2 大日本優名鏡 市川団十郎・熊ヶ嶽庄五郎・大蘇芳年 山崎年信 明治11年(1878) 大判錦絵	14 東名所墨田川梅若之古事 月岡芳年 明治16年(1883) 大判錦絵3枚続
3 頼光四天王大江山鬼神退治之図 月岡芳年 元治元年(1864) 大判錦絵3枚続	15 藤花鯉魚図 月岡芳年 明治22年(1889) 大判錦絵3枚続
4 芳年武者牙類 相模守北条最明寺入道時頼 月岡芳年 明治16年(1883) 大判錦絵	16 大日本史略図会 第七十六代 崇徳天皇 月岡芳年 明治13年(1880) 大判錦絵3枚続
5 芳年漫画 舎那王於鞍馬山学武術之図 月岡芳年 明治21年(1888) 大判錦絵2枚続	17 大日本史略図会 第八十壹代 高倉天皇 月岡芳年 明治13年(1880) 大判錦絵3枚続
6 曾我時致乗裸馬駆大磯 月岡芳年 明治18年(1885) 大判錦絵3枚続	18 徳川治績年間紀事 初代安国院殿家康公 月岡芳年 明治8年(1875)頃 大判錦絵3枚続
7 仮寝のきぬぎぬ 月岡芳年 万延元年(1860) 大判錦絵3枚続	19 徳川治蹟年間紀事 十五代徳川慶喜公 月岡芳年 明治8年(1875)頃 大判錦絵3枚続
8 全盛四季冬 根津花やしき大松楼 月岡芳年 明治16年(1883)か 大判錦絵3枚続	20 徳川累代像頭 月岡芳年 明治8年(1875)か 大判錦絵3枚続
9 風俗三十二相 めがさめさう 弘化年間むすめの風俗 月岡芳年 明治21年(1888) 大判錦絵	21 坂田怪童丸 歌川国芳 天保年間(1830～43) 大判錦絵
10 風俗三十二相 むまさう 嘉永年間女郎之風俗 月岡芳年 明治21年(1888) 大判錦絵	22 金太郎捕鯉魚 月岡芳年 明治18年(1885)か 大判錦絵縦2枚続
11 郵便報知新聞 第四百四十九号 月岡芳年 明治8年(1875) 大判錦絵	23 本朝武者鏡 怪童丸 歌川国芳 安政2年(1855) 大判錦絵
12 新撰東錦絵 お富興三郎話 月岡芳年 明治18年(1885) 大判錦絵2枚続	24 金太郎尽 相撲之図 歌川国芳 天保年間(1830～43) 大判錦絵
13 五代目尾上菊五郎一つ家の老婆 月岡芳年 明治	25 一魁随筆 山姥 怪童丸 月岡芳年 明治6年(1873) 大判錦絵

26 月百姿 金時山の月 月岡芳年 明治23年
(1890) 大判錦絵

27 信州小田井城合戦之図 月岡芳年 明治元年
(1868) 大判錦絵3枚続

28 魁題百撰相 羽柴太閤豊臣秀吉公 月岡芳年 明
治元年(1868) 大判錦絵

29 魁題百撰相 会津黄門景勝 月岡芳年 明治元年
(1868) 大判錦絵

30 東台 山王山戦争之図 月岡芳年 明治7年
(1874)か 大判錦絵3枚続

31 武州六郷船渡図 月岡芳年 明治元年(1868)
大判錦絵3枚続

32 江戸城御入城の図 月岡芳年 明治元年(1868)
大判錦絵3枚続

33 鹿児島征討紀聞 月岡芳年 明治10年(1877)
大判錦絵3枚続

34 薩州鹿児島征討記之内 賊徒之女隊勇戦之図
月岡芳年 明治10年(1877) 大判錦絵3枚続

35 鹿児島 両勇一騎討之図 月岡芳年 明治10年
(1877) 大判錦絵3枚続

36 西郷隆盛切腹図 月岡芳年 明治10年(1877)
大判錦絵3枚続

37 西南雲晴朝東風 隆盛の本営に少年輩留別の図
月岡芳年 明治11年(1878) 大判錦絵3枚続

38 新形三十六怪撰目録 月岡芳年 大判錦絵

39 新形三十六怪撰 貞信公夜宮中に怪を懼しむの図
月岡芳年 明治22年(1889) 大判錦絵

40 新形三十六怪撰 さぎむすめ 月岡芳年 明治22
年(1889) 大判錦絵

41 新形三十六怪撰 武田勝千代月夜に老狸を撃の図
月岡芳年 明治22年(1889) 大判錦絵

42 新形三十六怪撰 大森彦七道に怪異に逢ふ図
月岡芳年 明治22年(1889) 大判錦絵

43 新形三十六怪撰 清玄の霊桜姫を慕ふの図 月岡
芳年 明治22年(1889) 大判錦絵

44 清玄墮落之図 月岡芳年 明治22年(1889)
大判錦絵縦2枚続

45 新形三十六怪撰 老婆鬼腕を持去る図 月岡芳年
明治22年(1889) 大判錦絵

46 新形三十六怪撰 鬼若丸池中に鯉魚を窺ふ図
月岡芳年 明治22年(1889) 大判錦絵

47 新形三十六怪撰 小町桜の精 月岡芳年 明治22
年(1889) 大判錦絵

48 新形三十六怪撰 為朝の武威痘鬼神を退く図
月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

49 新形三十六怪撰 内裏に猪早太鶴を刺図 月岡
芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

50 新形三十六怪撰 清姫日高川に蛇鮈と成る図
月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

51 新形三十六怪撰 蒲生貞秀臣土岐元貞甲州猪鼻山

魔王投倒図 月岡芳年 明治23年(1890) 大判
錦絵

52 新形三十六怪撰 鐘馗夢中ニ捉鬼之図 月岡芳年
明治23年(1890) 大判錦絵

53 新形三十六怪撰 地獄太夫悟道の図 月岡芳年
明治23年(1890) 大判錦絵

54 新形三十六怪撰 藤原実方の執心雀となるの図
月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

55 新形三十六怪撰 平惟茂戸隠山に悪鬼を退治す図
月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

56 新形三十六怪撰 皿やしきお菊の霊 月岡芳年
明治23年(1890) 大判錦絵

57 新形三十六怪撰 藤原秀郷龍宮城蜈蚣を射るの図
月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

58 新形三十六怪撰 布引滝悪源太義平霊討難波次郎
月岡芳年 明治22年(1889) 大判錦絵

59 新形三十六怪撰 葛の葉きつね童子とわかるゝの
図 月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

60 新形三十六怪撰 仁田忠常洞中に奇異を見る図
月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

61 新形三十六怪撰 清盛福原に数百の人頭を見る図
月岡芳年 明治23年(1890) 大判錦絵

62 平清盛怪異を見る図 歌川広重(初代) 天保14
~弘化3年(1843~46) 大判錦絵3枚続

63 新形三十六怪撰 奈須野原殺生石之図 月岡芳年
明治24年(1891) 大判錦絵

64 新形三十六怪撰 業平 月岡芳年 明治23年
(1890) 大判錦絵

65 新形三十六怪撰 三井寺頼豪阿闍梨悪念胤と変ず
る図 月岡芳年 明治24年(1891) 大判錦絵

66 新形三十六怪撰 蘭丸蘇鉄之怪ヲ見ル図 月岡
芳年 明治24年(1891) 大判錦絵

67 新形三十六怪撰 ほたむとうろう 月岡芳年
明治24年(1891) 大判錦絵

68 新形三十六怪撰 大物之浦二霊平知盛海上ニ出現
之図 月岡芳年 明治24年(1891) 大判錦絵

69 新形三十六怪撰 小早川隆景彦山ノ天狗問答之図
月岡芳年 明治25年(1892) 大判錦絵

70 新形三十六怪撰 二十四孝狐火之図 月岡芳年
明治25年(1892) 大判錦絵

71 新形三十六怪撰 宗祇 月岡芳年 明治25年
(1892) 大判錦絵

72 新形三十六怪撰 源頼光土蜘蛛ヲ切ル図 月岡
芳年 明治25年(1892) 大判錦絵

73 新形三十六怪撰 節婦の霊瀧に掛る図 月岡芳年
明治25年(1892) 大判錦絵

74 新形三十六怪撰 茂林寺の文福茶釜 月岡芳年
明治25年(1892) 大判錦絵

75 新形三十六怪撰 四ツ谷怪談 月岡芳年 明治25
年(1892) 大判錦絵

76 新形三十六怪撰 おもみつゝら 月岡芳年 明治
25年(1892) 大判錦絵

77 芳年漫画 舌切雀 月岡芳年 明治29年(1896)
大判錦絵2枚続

- (イ) 題 名：特別展「横浜の元祖 寶生寺—寶生寺聖教横浜市文化財指定記念—」
 会 期：平成29年9月1日(金)～10月29日(日)
 会 場：神奈川県立金沢文庫
 主 催：神奈川県立金沢文庫・神奈川県立歴史博物館
 展示資料点数：24件78点
 担 当：学芸員 神野 祐太
 概 要：寶生寺(横浜市南区)の所蔵になる聖教が横浜市有形文化財に指定されたことを記念して、同寺本尊大日如来坐像をはじめ、仏画、古文書、聖教類を一同に公開した展覧会。

○出品作品 (凡例) No. 資料名 作者 時代 形状資料名

1	大日如来坐像(附像内納入品) 木造 鎌倉時代 1軀	応永24年9月3日 1通
2	厨子入薬師三尊十二神将四天王像 木造 鎌倉時代 1基	22-7 僧都円鎮讓状 紙本墨書 永享11年9月15日 1通
3	両界曼荼羅 絹本著色 室町時代 2幅	22-8 市河季氏・比留間範数連署寄進状 紙本墨書 嘉吉2年4月26日 1通
4	法華曼荼羅 絹本著色 鎌倉時代 1幅	22-9 寶生寺住持円鎮寄進状 紙本墨書 宝徳2年7月2日 1通
5	尊勝曼荼羅 絹本著色 室町時代 1幅	22-10 真照寺住持円鎮百姓年貢銭寄進状 紙本墨書 寛正4年5月9日 1通
6	光明曼荼羅 絹本著色 江戸時代 1幅	22-11 堀政家寄進状案 紙本墨書 文正元年8月晦日 1通
7	阿字観 絹本著色 江戸時代 1幅	22-12 真照寺住持円鎮田畠讓状 紙本墨書 文明5年5月9日 1通
8	五筆五字 絹本著色 鎌倉時代 1幅	22-13 河内兼吉山寄進状 紙本墨書 文明8年9月15日 1通
9	釈迦十六善神像 絹本著色 室町時代 1幅	22-14 太田道灌禁制 紙本墨書 文明10年2月 日 1通
10	五髻文殊菩薩像 絹本著色 南北朝時代 1幅	22-15 太田道灌書状 紙本墨書 4月10日 1通
11	文殊菩薩像 絹本著色 南北朝時代 1幅	22-16 法印覚日讓状 紙本墨書 長享3年7月25日 1通
12	普賢菩薩十羅刹女像 絹本著色 室町時代 1幅	22-17 法印鎮譽住持職讓状 紙本墨書 永正2年11月18日 1通
13	釈迦如来地藏菩薩来迎像 絹本著色 絹本著色 1幅	22-18 法印定鎮住持職讓状 紙本墨書 永正15年11月3日 1通
14	十一面観音像 絹本著色 室町時代 1幅	22-19 堀之内百姓等連署請文 紙本墨書 天文11年11月15日 1通
15	十三仏図 絹本著色 室町時代 1幅	22-20 北条氏康判物 紙本墨書 天文14年6月3日 1通
16	五大明王像 絹本著色 室町時代 3幅	22-21 岡崎正長等連署証文 紙本墨書 弘治2年5月3日 1通
17	不動明王二童子像 絹本著色 室町時代 1幅	22-22 東寺宝菩提院僧正壳恵真言諸門徒法度写 紙本墨書 弘治3年11月21日 1通
18	羅漢図 絹本著色 室町時代 1幅	22-23 蒔田百姓蒞部主計助・小串新兵衛等連署寄進状 紙本墨書 永録5年2月20日 1通
19	十六羅漢図 絹本著色 室町時代 1幅	22-24 (海老名)定季書状 紙本墨書 年未詳2月23日 1通
20	十王図 絹本著色 室町時代 9幅	
21	弘法大師像 絹本著色 室町時代 1幅	
22-1	尊龍院僧正房御教書 紙本墨書 至徳元年 (1384)6月19日 1通	
22-2	(二階堂)行有坊地充行状 紙本墨書 康応元年(1389)8月3日 1通	
22-3	後小松天皇口宣案 紙本墨書 応永14年12月6日 1通	
22-4	法印玄範補任状 紙本墨書 応永16年4月15日 1通	
22-5	権大僧都快尊別当職補任状 紙本墨書 応永2年12月11日 1通	
22-6	忍祐目島安堵状 紙本墨書	

- | | |
|--|--|
| <p>23-1 良忍授与覚尊許可印信 紙本墨書
永和2年11月1日 1通</p> <p>23-2 良忍授与覚尊第二重印信 紙本墨書
永和2年11月10日 1通</p> <p>23-3 良忍授与覚尊大許可印信 紙本墨書
永和2年11月12日 1通</p> <p>23-4 良忍授与覚尊離作業口伝 紙本墨書
永和2年11月21日 1通</p> <p>23-5 良忍授与覚尊靈灌頂印信 紙本墨書
永和2年11月21日 1通</p> <p>23-6 良忍授与覚尊惣許可印信 紙本墨書
永和4年3月10日 1通</p> <p>23-7 印融授与覚日伝法灌頂印信紹文 紙本墨書
文明18年1月11日 1通</p> <p>23-8 印融授与覚日靈灌頂印信 紙本墨書
文明18年1月11日 1通</p> <p>23-9 印融授与覚日三寶院流座主相承大事 紙本墨書
文明18年1月11日 1通</p> <p>23-10 印融授与覚日三寶院流第三重印信 紙本墨書
文明18年1月11日 1通</p> <p>24-1 寶生寺開山覚尊法印門徒一結之置文 紙本墨書
室町時代 1通</p> <p>24-2 胎藏界伝法灌頂作法 紙本墨書 文安5年
1卷</p> <p>24-3 開眼薬師 紙本墨書 応永5年 1帖</p> <p>24-4 huM 玄字秘釈 紙本墨書 永和元年 1帖</p> | <p>24-5 金剛頂瑜伽青頸大悲王觀自在念誦儀軌
紙本墨書 文永2年 1帖</p> <p>24-6 護摩口伝抄 紙本墨書 応永6年 1帖</p> <p>24-7 伝法灌頂記(雪下記) 紙本墨書 明応3年
2卷</p> <p>24-8 唱導法則 紙本墨書 天文5年 1冊</p> <p>24-9 誦經草案 紙本墨書 戦国時代 1冊</p> <p>24-10 血脈抄 紙本墨書 戦国時代 1帖</p> <p>24-11 薄草決(薄草紙口決)第十六 紙本墨書
天文8年 1帖</p> <p>24-12 胎藏私鈔 紙本墨書 延徳4年 1冊</p> <p>24-13 円満抄 紙本墨書 永徳2年 1卷</p> <p>24-14 神祇明鏡集 紙本墨書 室町時代 1帖</p> <p>24-15 五教章上卷聴書 紙本墨書 室町時代 1帖</p> <p>24-16 大山寺三昧耶戒道場図 紙本墨書 江戸時代
1鋪</p> <p>24-17 大般若結願作法 紙本墨書 長禄4年 1帖</p> <p>24-18 嘆徳 紙本墨書 天文5年 1冊</p> <p>24-19 持戒清浄印明 紙本墨書 宝暦13年 1卷</p> <p>24-20 西院流血脈 紙本墨書 江戸時代 1枚</p> <p>24-21 西院流三方血脈 紙本墨書 嘉永元年 1枚</p> <p>24-22 兵法(摩利支天三十番神円相) 紙本墨書
江戸時代 1枚</p> <p>24-23 屋敷点定事 紙本墨書 江戸時代 1枚
参考 仏涅槃図 絹本著色 室町時代 1幅</p> |
|--|--|

- (ウ) 題 名：特別展「鎌倉彫の仏具～こめられた想い 受け継がれる形～」
 会 期：平成29年10月17日(火)～12月17日(日)
 会 場：鎌倉彫資料館
 主 催：鎌倉彫資料館・神奈川県立歴史博物館
 展示資料点数：63点
 担 当：学芸員 小井川 理
 概 要：鎌倉彫の中でも「仏具」に焦点を当て、室町～昭和までの鎌倉彫仏具を器物の種別に紹介、併せて明治期に制作された仏像などの仏教的意匠の作品を展示。

○出品作品 (凡例) No. 資料名 時代

1	屈輪文大香合 永禄8年(1565)	14	牡丹文八角香合 江戸時代
2	牡丹文大香合 室町時代	15	牡丹文香合 江戸時代
3	牡丹文大香合 室町～桃山時代	16	獅子文香合 室町～桃山時代
4	荔枝文大香合 江戸時代	17	獅子形香合 室町～桃山時代
5	牡丹唐草文大香合 大正時代	18	屈輪文香合 室町～桃山時代
6	牡丹文香合 室町～桃山時代	19	屈輪文香合 室町～桃山時代
7	牡丹文香合 室町～桃山時代	20	屈輪文香合 室町～桃山時代
8	牡丹文香合 江戸時代	21	屈輪文香合 室町～桃山時代
9	牡丹文香合 江戸時代	22	椿文笈 室町時代
10	牡丹文香合 室町～桃山時代	23	椿文笈 室町～桃山時代
11	牡丹文香合 江戸時代	24	阿弥陀五輪塔図鉦架 天正年間(1573-92)頃
12	牡丹文香合 江戸時代	25	阿弥陀位牌図鉦架 室町～桃山時代
13	牡丹文香合 江戸時代	26	阿弥陀三尊図鉦架支板 室町～桃山時代

- | | | | |
|----|----------------------------|----|--------------------|
| 27 | 阿弥陀位牌図釘架支板 室町～桃山時代 | 45 | 菊文供物椀 江戸時代 |
| 28 | 屈輪文三足卓 室町時代 | 46 | 蓮華文高坏 昭和7年(1932) |
| 29 | 蓮池文透彫経机 室町～桃山時代 | 47 | 秋草蠶螂蜻蛉図厨子 江戸時代 |
| 30 | 桐文高卓 室町～桃山時代 | 48 | 蓮文深手盆 明治45年(1912) |
| 31 | 花鳥文三足高卓 室町～桃山時代 | 49 | 蓮華文菱形盆 明治時代 |
| 32 | 花鳥文高卓 江戸時代 | 50 | 蓮華文碁笥 明治23年(1890) |
| 33 | 蓮唐草文経台 明治37年(1904) | 51 | 宝相華文茶托 明治時代 |
| 34 | 鳳凰牡丹文六角卓 江戸時代 | 52 | 宝相華文喰籠 昭和時代 |
| 35 | 獅子牡丹文卓 江戸時代 | 53 | 宝相華文宝石箱 昭和時代 |
| 36 | 前机(模刻) 昭和63年(1988) 原品:鎌倉時代 | 54 | 古代面文長方盆 明治時代 |
| 37 | 菊唐草文袈裟箱 江戸時代 | 55 | 古代面文長方盆 明治時代 |
| 38 | 龍文経箱 江戸時代 | 56 | 迦楼羅王面香合 明治時代 |
| 39 | 牡丹文経箱 江戸時代 | 57 | 迦楼羅王面小箱 明治～大正時代 |
| 40 | 草花文錫杖 江戸時代 | 58 | 仏子文長方盆 明治～大正時代 |
| 41 | 龍文仏子 江戸時代 | 59 | 仏子・如意文長方盆 明治時代 |
| 42 | 雲龍文仏子 大正～昭和時代 | 60 | 木魚形香合 明治～大正時代 |
| 43 | 蓮華文供物皿 明治～大正時代 | 61 | 出山釈迦立像 明治時代 |
| 44 | 牡丹文供物椀 江戸時代 | 62 | 観音菩薩半跏像 慶応3年(1867) |
| | | 63 | 龍神立像 明治37年(1904) |

ウ 協力企画展

- (ア) 題 名:ハマっ子、三浦半島をゆく 江戸と弥生 海と横浜
 会 期:平成29年6月21日(水)～7月17日(月)
 会 場:横浜市歴史博物館
 主 催:横浜市歴史博物館
 協 力:神奈川県立歴史博物館
 展示資料点数:274点のうち38件234点
 当館担当:学芸員 千葉 毅
 概 要:当館所蔵の三浦市間口洞窟遺跡出土品を活用した展示。

○当館出品作品 (凡例) No. 資料名 複数のみ点数

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 弥生土器 2点 | 20 銚形角器 9点 |
| 2 土師器 5点 | 21 異形角器 5点 |
| 3 かわらけ 7点 | 22 釣針形角器 4点 |
| 4 土錘 2点 | 23 角器(有孔角器) |
| 5 磨製石鏃 | 24 使用痕のある鹿角 |
| 6 勾玉 | 25 鹿角断片 10点 |
| 7 小玉 | 26 鏃形牙器 |
| 8 卜骨 7点 | 27 磨製搔器型貝器 |
| 9 卜甲 3点 | 28 貝輪 6点 |
| 10 鏃形骨器 4点 | 29 包丁形貝器 71点 |
| 11 有孔円板形骨器 | 30 搔器形貝器 61点 |
| 12 尖頭形骨器 | 31 ナイフ形貝器 |
| 13 管形骨器 | 32 鏃形貝器 3点 |
| 14 針形骨器 3点 | 33 貝製刃器 7点 |
| 15 使用痕のある骨片 | 34 三角形貝器 |
| 16 鏃形角器 | 35 斧形貝器 |
| 17 尖頭形角器 2点 | 36 刀子 |
| 18 離頭銚形角器 3点 | 37 銅銭 |
| 19 籠形角器 | 38 挂甲小札 2点 |

- (イ) 題名：特別展「唐物—中世鎌倉文化を彩る海の恩恵—」
 会期：平成29年11月3日～平成30年1月8日
 会場：神奈川県立金沢文庫
 主催：神奈川県立金沢文庫
 協力：神奈川県立歴史博物館
 展示資料点数：94点のうち12点
 当館担当：学芸員 小井川 理
 概要：当館所蔵資料を含め、中世鎌倉にもたらされた唐物とその影響を受けて形作られた文化を紹介。

○当館出品作品 (凡例) No. 資料名

1 飯島・和賀江島絵図 (複製)	7 高麗青磁象嵌石榴文茶碗
2 青磁管耳花生	8 黒釉碗
3 青白磁劃花蓮華文瓶	9 堆黒屈輪文天目台
4 青磁鎗文鉢	10 堆朱屈輪文香合
5 白磁四耳壺	11 堆黒屈輪文香合
6 高麗青磁象嵌亀甲文茶碗	12 堆朱鳳凰牡丹文香合

(4) 神奈川県博開館50周年記念プロジェクト

ア プロジェクトについて

平成29年は、神奈川県立歴史博物館の前身である神奈川県立博物館（以下、「神奈川県博」とする。）の開館から50年であった。これを記念し平成29年度を通して各種催事を実施することで、歴史ある公立人文系博物館としての当館の存在を広くPRし、当館の魅力を広報するため本プロジェクトを実施した。加えて、設備工事のため休館中である当館が平成30年度に再開することへの県民の期待を高めることも目的とした。

イ プロジェクトの内容

(ア) 50周年記念映像の制作

神奈川県博開館50周年を周知するため、神奈川県立博物館の開館から現在に至るまでの歩みを紹介する映像を制作し、神奈川県庁公式youtubeチャンネル「かなちゃんTV」で公開した。

(イ) みんなの神奈川県博アーカイブ

神奈川県博にまつわる思い出を振り返るきっかけを提供し、当館への関心を高め、またそれを公開し共有することで当館の未訪問者への関心を引き寄せるため、神奈川県博にまつわる思い出（訪問の感想、写真、ビデオ、絵画等）を募集し、特設ウェブサイトにて公開した。公開に際しては、思い出を寄せていただいた方々の分布を地図上に示し、その空間的広がりを視覚化した。これにより、近接地以外とのつながりをも意識させ、遠隔地居住者へも当館の存在を広報した。

(ウ) 神奈川県博のカケラ

身近な場所に神奈川県博とのつながりが潜んでいることや神奈川県博所蔵品が様々な形で活用されていることを広報するため、当館収蔵品特別利用の成果物について、特に公共の場において利用されている事例（このような事例を本プロジェクトでは「神奈川県博のカケラ」とした。）を集め、特設ウェブサイトで紹介した。また、身近な場所に存在する歴史的な情報に対する関心を高めるきっかけともした。

(エ) #のこしたい「神奈川県」

「神奈川県」へ改めて眼を向けるきっかけを提供し、神奈川県への関心、郷土愛を醸成するため、当館公式twitterで神奈川の魅力や次世代に残したい神奈川らしさ等を「#（ハッシュタグ）のこしたい神

奈川」を付記し呟いた。同様に、twitter等のSNSにおいて個々人の考える「神奈川らしさ」や「神奈川の魅力」を呟いてもらうようtwitterや特設ウェブサイト等で呼びかけた。

(d) 特設ウェブサイトの設置

(7)～(e)の発信を中心とした本プロジェクトの情報拠点とするための特設ウェブサイトを制作、公開した。制作には学校法人岩崎学園横浜デジタルアーツ専門学校と共同であり、ウェブ課学生と当館学芸員とで議論を重ねながら進めた。

ウ 記念誌刊行

県博開館からの50年のあゆみを記録した記念誌『神奈川県立博物館・神奈川県立歴史博物館50年のあゆみ』を刊行した。データのみでなく、歴代学芸部長座談会を開催しその記録を掲載したり、展覧会担当者の一言、OBからの思い出等も掲載した。

B5判変形 600部（平成30年度にPDF公開予定）

エ 体制

総括 学芸部長 天野 勇

学芸部 学芸員 千葉 毅・学芸員 神野 祐太・学芸員 新井 裕美・学芸員 橋本 遼太・学芸員 武田 周一郎

(5) 教育普及・学習支援事業

広く県民の学習ニーズに応えるべく学習の機会を提供し、博物館で行う講座・講演会や各種行事などへの参加を通して、神奈川の歴史・文化や文化財についての知識・関心を深めることを目的として実施した。

ア 講座

展示内容や文化財への興味関心を持ってもらい、より深い理解を図るため、次の講座を実施した。

(ア) 【県博セミナー】生涯学習課主管の県立社会教育施設公開講座。連続4回、有料(4,000円、全回申込者を優先するが、定員に達しない場合は各回毎に単独受講可能。単独受講の場合は、1回1,000円。14:00-16:00)

I期

テーマ：「若手研究者が語る、考古学の魅力とこれから」

(定員50名 応募者40名〈単回を含む事前申込者〉)

概要：考古学の魅力や考え方、そしてこれからの姿について、日本列島の旧石器時代、縄文時代、弥生時代、中世、そして日本列島を飛び出し古代オリエントの世界などを通して考える。これからの考古学を担う若手研究者達を講師にむかえ講座を行った。

・第1回 7月2日(日) (受講者25名)

「石ガールから埋蔵文化財の専門家へ」神奈川県文化遺産課主事 高屋敷 飛鳥

・第2回 7月9日(日) (受講者26名)

「わたしと考古学と縄文土器」公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センター調査研究員 大綱 信良氏

・第3回 7月16日(日) (受講者19名)

「弥生時代を研究するということ」清泉女子大学情報環境センター職員 白石 哲也氏

・第4回 7月23日(日) 講師体調不良のため中止。

「地域のたからを活かすために—オリエント考古学と小田原市の事例から—」

小田原市文化財課主事 三戸 芽氏

※希望者を対象に当館講師(千葉)講座「考古学」(受講者21名)を実施。

II期

テーマ：「絵図で読み解く鎌倉の歴史」(定員50名 応募者181名〈単回を含む事前申込者〉)

概要：中世から近代にいたる鎌倉の歴史を、絵図を読み解きながら語る講座。講座では実際に絵図を見ながら都市鎌倉の変遷や歴史を学ぶ。

- ・第1回 9月2日(土) (受講者52名)
「武家の古都鎌倉を絵図から読む」日本女子大学 教授 古川 元也 氏
- ・第2回 9月9日(土) (受講者47名)
「戦国時代の鎌倉の町―善宝寺絵図をめぐる―」愛知学院大学 教授 福島 金治 氏
- ・第3回 9月16日(土) (受講者40名)
「今年度購入の写本系鎌倉絵図について」当館専門員 古宮 雅明
- ・第4回 9月30日(土) (受講者37名)
「横須賀線の開通と近代の鎌倉」横浜市都市発展記念館調査研究員 岡田 直 氏

(イ)【県博講座】当館学芸員による連続講座。無料。

会場：宇徳ビル8F会議室他

時間：(午前) 10:00-11:30 (午後) 14:00-15:30

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
1	日曜 午後	横浜開港とペリー 概要：神奈川ならではの歴史である、多くの異国船が日本近海に出現するようになった18世紀後半から条約締結、開港といういわゆる開国期について、世界史的文脈の中でその意義について解説した。	嶋村 元宏 (濱本 明海)	137名 (45名)	
	4月2日	①異国船の出現と三浦半島の海防			38名
	4月9日	②アヘン戦争とペリー来航予告			41名
	4月16日	③アジアの中の日本開国			38名
	4月23日	④横浜開港の世界史的意義			35名
2	火曜 午前	鎌倉における密教の成立と展開 概要：武家の都鎌倉を守護したのは、天台・真言の密教と神道であった。それを総合的に祀る社として鶴岡八幡宮は、発展した。この講座では、京都の鎮護国家に対する鎌倉の武家鎮護、鎌倉を守護した密教の歴史と寺社の興亡を解説した。	永井 晋 (有村 泰治)	209名 (30名)	
	4月11日	①鶴岡八幡宮の成立と発展			37名
	4月25日	②園城寺の鎌倉進出と密教修法の成立			36名
	5月9日	③仁和寺の鎌倉進出と延暦寺			35名
	5月23日	④延暦寺との対立と鶴岡社務隆弁			35名
3	火曜 午後	神奈川の年中行事 概要：県内で季節ごとに行われている年中行事を取り上げ、各地の地域の特徴と、その変化や目的について紹介した。	新井 裕美 (田辺 可奈)	55名 (30名)	
	4月11日	①「春の行事」			36名
	4月25日	②「夏の行事」			36名
	5月9日	③「秋の行事」			25名
	5月23日	④「冬の行事」			28名

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
4	木曜 午前	描かれたペリー来航 概要：ペリー来航関係画像資料を素材に、幕末日本を揺るがした一大事件を当時の人々がどのように認識していたのかを解説した。	嶋村 元宏 (豊田 倫子)	94名 (30名)	36名 39名 36名 34名
	4月13日	①ペリーを見た者たち			
	4月27日	②二つの《金海奇観》			
	5月11日	③夷荻としてのペリー			
	5月25日	④流布するペリーの肖像			
5	木曜 午前	神奈川の近代化遺産 概要：神奈川県内には明治時代以降の近代化の過程で築造された様々な建造物が多く残されており、今日では「近代化遺産」として、それらの文化財的側面が再評価されてきている。本講座では、それらを概観した上で、その中でも「戦争遺跡」とされる軍事関係の遺構について紹介した。	①丹治 雄一 ②千葉 毅 ③永井 晋 ④横須賀市教育委員会職員 野内秀明氏 (泉山 花江)	109名 (30名)	26名 27名 22名 19名
	4月13日	①かながわの近代化遺産 貿易・工業からのリゾート・軍事まで			
	4月27日	②横浜市日吉周辺にのこる戦争遺跡			
	5月11日	③東京湾要塞・猿島砲台について			
	5月25日	④(現地見学会)横須賀の戦争遺跡を歩く			
6	土曜 午後	眞葛焼の魅力 概要：明治の横浜で生まれ、高浮彫と釉下彩という多彩な超絶技巧で世界的な評価を得た眞葛焼。2016年には、窯を開いた初代宮川香山の歿後100年を迎えて全国規模の回顧展が開催され、改めて注目を集めている。初代宮川香山の作品を中心に、眞葛焼の歴史と魅力を紹介した。	小井川 理 (泉山 花江)	113名 (30名)	36名 33名 34名 33名
	4月22日	①開窯—京都から横浜へ—			
	5月13日	②高浮彫—世界の「マクズウェア」			
	5月27日	③釉下彩—帝室技芸員の實力			
	6月10日	④横浜の名窯として			
	13:30-16:00				

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
7	火曜 午前	室町水墨と関東水墨 概要：15世紀から16世紀にかけて鎌倉地方を中心に花開いた関東水墨画。その特徴を、京都地方の画壇の動向に触れながら詳しく解説した。	橋本 遼太 (豊田 倫子)	117名 (30名)	
	5月16日	①筆様制作—かたちの規範			39名
	5月30日	②牧谿と仲安真康—行体の道釈人物画			35名
	6月13日	③芸阿弥と祥啓—夏珪様山水			34名
	6月27日	④雪舟と宗淵—玉潤様山水			35名
8	火曜 午後	神奈川の近代美術 概要：神奈川に縁ある4つのテーマを通じて、近代美術の魅力に迫った。	角田 拓朗 (田辺 可奈)	98名 (30名)	
	5月16日	①日本画-1 錦木清方			37名
	5月30日	②洋画-1 横浜絵			35名
	6月13日	③日本画-2 日本美術院			37名
	6月27日	④洋画-2 草土社			37名
9	木曜 午前	中世の古文書を読む 概要：古文書を知るための講座は世の中に多くあるが、中世(12世紀後半から16世紀後半)の古文書をあつかうものは少ないようにみえる。本講座では、なじみのないこれら中世文書を、いくつかの史料を読むことによって、受講者が理解できるようにしていきたいと配慮した。また、各文書から歴史像が浮かび上がる道筋を解説した。	渡邊 浩貴 (有村 泰治)	187名 (30名)	
	6月1日	①中世武士と文書の世界			37名
	6月15日	②戦場を駆けめぐる文書たち			39名
	6月29日	③中世文書のひろがり			39名
	7月13日	④庶民の生活と文書			37名
10	木曜 午後	大山を深く知る—古代から現代まで 概要：霊峰として古代から現代にいたるまで信仰の対象となっている大山について、浮世絵や仏像、民俗学など多角的な視点から紹介した。また、第3回の現地見学会では、鎌倉時代から続くといわれる宿坊「おゝすみ山荘」の見学(当主、大山登拝をする信者の案内や世話をすする先導師である佐藤大住氏の解説付)と大山信仰に関わる神社仏閣や史跡の見学を通して、大山についての理解を深めた。	①桑山 童奈 ②神野 祐太 ③伊勢原市 文化財保護 審議委員 佐藤 大住氏 ④新井 裕美 (田辺 可奈)	168名 (30名)	
	6月1日	①浮世絵にみる大山詣			25名
	6月15日	②大山寺の不動明王像			26名
	6月29日	③(現地見学会)大山信仰の地を訪ねる			20名
	7月13日	④大山と庶民信仰			20名

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
11	火曜 午前 6月6日 6月20日 7月4日 7月18日	近世古文書入門講座（初級編） 概要：江戸時代の古文書の初級編。古文書初心者向けの講座。比較的読みやすい文書を読みながら、古文書解読の基礎を学ぶ。古文書を通して見えてくる江戸時代の人々の生活の様子を解説した。 ①江戸時代の古文書を読む（初級編） 壱 ②江戸時代の古文書を読む（初級編） 弐 ③江戸時代の古文書を読む（初級編） 参 ④江戸時代の古文書を読む（初級編） 肆	古宮 雅明 根本 佐智子 (豊田 倫子)	165名 (30名)	28名 31名 30名 28名
12	火曜 午後 6月6日 6月20日 7月4日 7月18日	地域から見た神奈川のみほとけ 概要：県域を4つの地域に分け、それぞれの仏像の特色を知ってもらうための講座。地域別に仏像の見どころをのべていき、人々が守り伝えてきた仏像の魅力を再発見してもらおうという趣旨の講座。 ①湘南地域の仏像—海と山と道— ②三浦半島の仏像—仏師運慶の伝説— ③鎌倉周辺の仏像—修理を経て伝えられた仏像たち— ④川崎横浜の仏像—街中の古代彫刻—	神野 祐太 (有村 泰治)	273名 (30名)	55名 52名 49名 45名
13	木曜 午前 6月8日 6月22日 7月6日 7月20日	かながわの人生儀礼 概要：県内で行われていた人生儀礼について取り上げ、それぞれの儀礼にこめられた願いを解説した。 ①産育儀礼 ②婚礼儀礼 ③厄年と年祝い ④葬送と儀礼	三浦 麻緒 (泉山 花江)	61名 (30名)	49名 47名 48名 46名
14	木曜 午後 6月8日 6月22日 7月6日 7月20日 8月3日	歴史系博物館 VS 自然系博物館 概要：当館学芸員と生命の星・地球博物館の学芸員が、共通のテーマや資料についてそれぞれ専門分野の視点で語り、専門分野の枠を超えた連携や共同研究の可能性を探る「石展」「石展2」につづく当館と地球博のコラボレーション講座。 ①近代史×地質学・岩石学 ②現代史・歴史地理学×画像解析学 ③彫刻史×植物学 ④考古学×植物学 ⑤絵画史×哺乳類学（会場：生命の星・地球博物館）	①丹治 雄一 ×山下 浩之、 田口 公則(地球博) ②武田 周一郎 ×新井田 秀一（地球博） ③神野 祐太 ×勝山 輝男 (地球博) ④千葉 毅× 大西 亘(地球博) ⑤橋本 遼太 ×鈴木 聡(地球博) (濱本 明海)	71名 (30名)	54名 53名 51名 50名 37名

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
15	日曜 午前	日記で読む源平合戦 概要：治承4年の源頼朝挙兵から、文治元年の壇ノ浦合戦にいたる源平合戦。この合戦は、『平家物語』・『吾妻鏡』に詳しく記されている。しかし、『平家物語』や『吾妻鏡』の記述は、追討使が朝廷に奏上した報告や、都にいる公家・寺社のもとにもたらされた情報とは内容の違うことが、ままある。この講座では、京都に届けられた情報をもとに、源平合戦の姿を復元していった。	永井 晋 (豊田 倫子)	146名 (30名)	
	7月2日	①富士川の合戦			56名
	7月9日	②治承四年冬の平氏の反攻			56名
	7月16日	③寿永元年・二年の北陸道の戦い			53名
	7月23日	④一ノ谷合戦			49名
16	土曜 午前	鎌倉でつくられた絵巻物 概要：鎌倉地域ゆかりの絵巻物について、テーマごと、作品ごとに詳しく解説した。	橋本 遼太 (田辺 可奈)	164名 (30名)	
	7月8日	①高僧伝 (1)			55名
	7月22日	②高僧伝 (2)			49名
	8月5日	③社寺縁起 (1)			47名
	8月19日	④社寺縁起 (2)			46名
17	火曜 午前	月岡芳年と明治の浮世絵 概要：月岡芳年、小林清親、豊原国周の3人の作品群と有名な事件を題材とした作品を紹介し、浮世絵史の終わりとなる明治時代の浮世絵を概観した。最終回は横浜市歴史博物館で開催中の「歴史×妖×芳年」展を見学した。	桑山 童奈 (有村 泰治)	88名 (30名)	
	7月11日	①月岡芳年の世界			55名
	7月25日	②小林清親・豊原国周の魅力			49名
	8月8日	③浮世絵にみる明治事件史			46名
	8月22日	④横浜市歴史博物館見学会			49名
18	火曜 午後	うるわしき箱—しまい、かざる、日本美術史— 概要：日本の美術工芸史の中では、さまざまな「箱」が生み出されてきた。何かを収めるという用途と、調度品としての美が融合した「箱」に注目し、その魅力と、それを生み出す日本文化の特色を考えた。	小井川 理 (濱本 明海)	51名 (30名)	
	7月11日	①箱のしくみとみどころ			45名
	7月25日	②しまい、守る箱			42名
	8月8日	③飾り、しつらえる箱			39名
	8月22日	④祈り、願う箱			42名

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
19	火曜 午前	近世古文書入門講座（中級編） 概要：江戸時代の古文書解説の中級編。古文書解説の基礎知識と少し心得のある方向けの講座。主に県内の古文書をテキストとし、古文書解説の文書を通して見えてくる江戸時代の人々の生活の様子を解説した。	古宮 雅明 根本 佐智子 (豊田 倫子)	104名 (30名)	
	8月1日	①江戸時代の古文書を読むー中級編ーⅠ			32名
	8月29日	②江戸時代の古文書を読むー中級編ーⅡ			32名
	9月12日	③江戸時代の古文書を読むー中級編ーⅢ			32名
	9月26日	④江戸時代の古文書を読むー中級編ーⅣ			31名
20	火曜 午後	神奈川の現代史を読む 概要：関東大震災を起点とする神奈川の現代史。文書や地図、写真など様々な資料を読み解き、現在に至る地域の姿を理解した。	武田 周一郎 (濱本 明海)	90名 (30名)	
	8月1日	①関東大震災の記憶			57名
	8月29日	②昭和初期の神奈川県鳥瞰図			51名
	9月12日	③都市化の様相			41名
	9月26日	④高度成長の時代			51名
21	木曜 午前	かながわの近代産業史Ⅱ 概要：近代の神奈川県域で展開した各種産業の動向を近代日本経済史上に位置づけて考察した。	丹治 雄一 (田辺 可奈)	92名 (30名)	
	8月17日	①鉄道業ー鉄道発祥の地での鉄道網の整備			
	8月31日	②京浜工業地帯の形成と重化学工業化の進展			
	9月14日	③ビール醸造業ー横浜に始まる発展の歴史			38名
	9月28日 10:00-12:00	④(現地見学会)日本ビール産業発祥の地をめぐる			38名 35名 31名
22	木曜 午後	県博と馬車道のあゆみ 概要：2017年は神奈川県博開館50周年の節目。この機会に神奈川県博・横浜正金銀行・馬車道の歩みを考えてみようという講座。	武田 周一郎 (豊田 倫子)	62名 (30名)	
	8月17日	①神奈川県博の50年			37名
	8月31日	②横浜正金銀行の67年			38名
	9月14日	③横浜正金銀行の人々			34名
	9月28日	④馬車道の150年			29名

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
23	木曜 午後	県央・県西の古寺と仏像 概要：神奈川の古寺や仏像というと、一般に鎌倉中心の地域を思い浮かべるが、実は本県の中央や西部にも、それと肩をならべる、あるいはより古い寺社が存在し、豊かな仏像や神像が多く伝えられている。この講座ではそれらを地域別に紹介し、さらにその代表的寺院であり、近時、重要文化財本堂の修理が竣工となった伊勢原市宝城坊（日向薬師）の拝観見学を行った。	①～③ 薄井 和男 ④伊勢原市 教育総務課 歴史文化担 当課長 立花 実 氏 (泉山 花江)	175名 (30名)	
	8月10日	①厚木・平塚・大磯地域の仏像			36名
	8月24日	②伊勢原・秦野地域の仏像			34名
	9月7日	③小田原・箱根地域の仏像			35名
	9月21日 13:30-15:30	④(現地見学会)宝城坊(日向薬師)の見学と仏像拝観			34名

(ウ) 【県博講座 学芸員が推すこの逸品】 各専門分野から資料を選んでの講座。無料。

会 場：宇徳ビル 8F 会議室

時 間：10:00～11:30 (土曜日)

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
1	4月22日	雪村筆「芙蓉小禽図」 概要：まるい小窓のなか、芙蓉の花に雀が一羽。この愛らしい小品を描いた戦国時代の画家雪村の魅力に迫った。	橋本 遼太 (豊田 倫子)	67名 (30名)	37名
2	5月13日	阿弥陀如来坐像—運慶様式の仏像— 概要：当館の彫刻のなかでも人気の高い運慶様式の阿弥陀如来像。その見どころを紹介しつつ、仏師運慶の魅力にも迫った。	神野 祐太 (豊田 倫子)	201名 (30名)	37名
3	5月27日	月岡芳年の浮世絵 概要：月岡芳年（1839～92）は幕末から明治にかけて活躍し、「最後の浮世絵師」とも呼ばれている。今回は芳年が描いた数多くの作品の中から、当時よく知られていた物語を描いた作品群を紹介し、芳年画の魅力を探った。	桑山 童奈 (有村 泰治)	94名 (30名)	30名
4	6月24日	堆朱鳳凰牡丹文香合—館蔵の彫漆作品とともに— 概要：中世以降、中国からもたらされた彫漆器は、重厚かつ華麗で緻密な美しさが愛され、日本の文化にも大きな影響を及ぼした。平成28年度に修理を行った「堆朱鳳凰牡丹文香合」をはじめ当館所蔵の作品からその魅力を紹介した。	小井川 理 (濱本 明海)	55名 (30名)	41名

No	開催日	テーマ・概要	講師 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
5	7月15日	神奈川県鳥瞰図 概要：関東大震災から復興を遂げた昭和初期の神奈川県。その姿を発信した「神奈川県鳥瞰図」を読み解いた。	武田 周一郎 (豊田 倫子)	70名 (30名)	45名
6	8月26日	足利晴氏公帖 概要：公帖（こうじょう）とは、公権力が禅宗寺院の住持を任命する辞令書。文書に書かれている内容は極めて簡素であるが、他の関連史料とあわせて読むことで、公帖の背後に隠された人々の様々な思惑を解説した。	渡邊 浩貴 (有村 泰治)	81名 (30名)	58名

(エ) 【人文科学講座】外部講師による講座。無料。

会 場：宇徳ビル8F会議室

時 間：14：00～16：00（土曜日）

No	開催日	テーマ・講師・概要	学芸担当 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
1	6月24日	醍醐寺の法流と東国 講師：日本女子大学准教授 藤井 雅子 氏 概要：貞観16(874)年に空海の法孫聖宝によって創建され、三寶院流をはじめとする真言密教の重要な法流を伝えてきた京都醍醐寺。鎌倉時代以降、醍醐寺の僧侶は鎌倉や地方の末寺に下り、密教の伝授を行い、教線を広げていった。本講座は醍醐寺に伝わる史料から、醍醐寺と鎌倉や東国寺院との関わりや、東国寺院の実態などを解説した。	永井 晋 (泉山 花江)	229名 (50名)	47名
2	7月8日	中世都市鎌倉の境界と領域 一都市構造の変容と権力一 講師：日本考古学協会理事 馬淵 和雄 氏 概要：鎌倉はずっと同じ町構造だったわけではなく、古来以来の基本的な街の構成に対し、十二世紀末期に源頼朝が鶴岡八幡宮と若宮大路を加え、その半世紀後に執権北条泰時が大きく改造した。さらに十四世紀以降足利氏により再び古代構造への回帰が企てられた。新興の宗教勢力もきわめて大きな影響を与えた。数世紀にわたる鎌倉の変化を、道路や町場の生成、墓域の設定などを通して解説した。	渡邊 浩貴 (田辺 可奈)	191名 (50名)	54名
3	8月5日	杉江松恋が選ぶ東海道10名勝 講師：文芸評論家・ライター 杉江 松恋 氏 概要：ライターや文芸評論家として知られ、平成の名道中記「東海道でしょう！」の著者の一人である杉江松恋が東海道をその博識と体験で語った。	桑山 童奈 (豊田 倫子)	142名 (50名)	53名

(オ) 【地域巡回講座】 県内4地域での開催講座。無料。

No	開催日時 地域・会場	テーマ・講師・概要	学芸担当 (普及担当)	応募者 (定員)	受講者
1	4月20日 (木) 10:30-15:30 【横須賀】 清雲寺 満昌寺 満願寺ほか	三浦一族の本拠地を訪ねて 解説：企画普及課長 永井 晋 概要：横須賀市大矢部は、三浦一族の全盛時代を築いた三浦義村の本拠地として、三浦氏ゆかりの文化財を多く残している。本講座では、三浦氏ゆかりの寺院や史跡をめぐり、鎌倉幕府の重臣として活躍した三浦一族の繁栄した時代を辿った。	渡邊 浩貴 (濱本 明海)	158名 (30名)	28名
2	5月10日 (水) 13:30-16:30 【金沢文庫】 県立金沢文庫	国宝 金沢文庫文書にひたる 講師：金沢文庫学芸課長 西岡 芳文 当館企画普及課長 永井 晋 概要：平成28年8月に国宝となった「金沢文庫文書」について、展示担当者が解説した。実際に展示を見学し、文書の面白さを堪能した。	渡邊 浩貴 (泉山 花江)	93名 (30名)	74名
3	7月26日 (水) 13:30-16:30 【鎌倉】 鎌倉国宝館	鎌倉国宝館に県博の仏像をみにいこう 講師：鎌倉国宝館副館長 内藤 浩之 氏 当館学芸員 神野 祐太 概要：当館の休館にともなって、所蔵・保管の彫刻作品（主に仏像）は、鎌倉国宝館に引越した。鎌倉国宝館平常展示「鎌倉の仏像」に県博の仏像コーナーが設けられており、常時4体の彫刻作品が展示されていた。本講座では、国宝館の歴史や展示作品の概要を学びながら、引越しの様子を紹介し、展示室において両館の仏像を見学した。	神野 祐太 (泉山 花江)	100名 (30名)	27名
4	8月30日 (水) 13:00-16:00 【日吉】 慶應義塾大学日吉キャンパス	連合艦隊司令部地下壕を知る 講義：慶應義塾大教授 安藤 広道 氏 現地見学：安藤 広道 氏 当館学芸員 千葉 毅 概要：旧日本海軍連合艦隊司令部地下壕をはじめとする戦争遺跡についての講義を行ったのち、地下壕を実際に歩いて見学し、近代化遺産としての戦争遺跡について学んだ。	千葉 毅 (田辺 可奈)	181名 (30名)	29名

(カ) 【体験教室】体験を通して歴史や文化を学ぶ。大人向け、子ども向けの教室を実施。

a 一般向け

No	開催日時 会場	テーマ・講師・概要・受講料	担当	応募者 (定員)	受講者
1	6月9日(金) 10:00-12:00 14:00-16:00 宇徳ビル8 階会議室	日本の伝統技術を学ぼう！—組紐体験— 講師：西岡甲房 組紐師 西岡 千鶴 氏 概要：組紐は、日本の伝統的な技法で製作された紐で、正倉院に収められる宝物や、甲冑や刀剣などの武具や調度品、仏教や神道の諸道具に用いられているなど、日本の生活や文化に不可欠なものである。本講座では組紐の歴史と技法の概要を学び、特に、最も古い組紐の技法で、指だけを使って組む「クテ打」をとりあげ、その製作を体験した。また、「組紐」づくりの体験を通して、博物館に関わりの深い甲冑の復元や修復などへの応用の実際を学び、文化財保護意識の普及も目的とした。 受講料：無料 ただし材料費を実費負担(850円)	非常勤学芸員 田辺 可奈	午前 24名 午後 22名 (各回 15名)	午前 13名 午後 13名
2	9月8日(金) 9:50-12:00 13:50-16:00 小田原市郷土文化館分館 松永記念館	お茶くらべ 講師：裏千家流准教授 小檜山 國子 氏 小田原市郷土文化館学芸員 中村 暢子 氏 当館企画普及課長 永井 晋 概要：講義・体験・見学をとおしてお茶の歴史と文化を学ぶ。仏教の伝来とお茶の歴史に関する講義、裏千家流の茶道体験、展示見学といった昨年のカリキュラムに、今年では中世と現代の抹茶を飲みくらべる体験を新たに加えた。 受講料：無料 ただし抹茶・菓子代を実費負担(300円)	非常勤学芸員 泉山 花江	午前 33名 午後 23名 (各回 20名)	午前 11名 午後 15名
3	9月11日 (月) 10:00-12:00 14:00-16:00 宇徳ビル8 階会議室	「背守り」—子どもの健やかな成長を願うもの— 講師：当館学芸員 新井 裕美 概要：背守りとは、幼児の着物の後ろ襟下などにつける縫い飾りで、これをつけることで災いや魔除けとしたもの。縫い飾りには子どもの健やかな成長を願って吉祥紋や呪術的な紋が施されてきた。本講座では、背守りの解説と、実際に制作を行った。 受講料：無料	非常勤学芸員 濱本 明海	午前 17名 午後 10名 (各回 20名)	午前 13名 午後 8名

No	開催日時 会場	テーマ・講師・概要・受講料	担当	応募者 (定員)	受講者
4	1月10日 (水) 10:00-12:40 14:00-16:40 麒麟ビール 横浜工場	大人の工場見学ー麒麟ビール横浜工場ー 講師：麒麟ビール横浜工場総務広報担当 横山 文彦 氏 当館主任学芸員 丹治 雄一 概要：ビールとその歴史に対する関心を深めることができるように、当館学芸員による「日本のビール産業史」及び、麒麟ビール横浜工場横山氏による「ビールが産業化するための技術要件」の講義を行った。その後、麒麟ビール横浜工場のビール製造工程の見学を行い、ビールの歴史と最新の製造技術までを学んだ。 受講料：無料	非常勤学芸員 濱本 明海	午前 406 名 午後 353 名 (各回 50 名)	午前 38 名 午後 33 名

b 子ども向け

No	開催日時 会場	テーマ・対象・講師・概要・受講料	担当	応募者 (定員)	受講者
1	8月7日(月) 10:00-12:00 14:00-16:00 宇徳ビル8 階会議室	張り子のだるまを作ろう 対象：小学生～中学生（小学校2年生以下は保護者の付添が必要） 講師：非常勤学芸員 三浦 麻緒 概要：粘土型に紙を貼りつけて成形する張り子の技法をもちいてだるまの制作を行った。あわせて受講者（子ども）に対し、だるま・張り子の作例紹介及び解説を行った。高校生インターンシッププログラムの一環として、本行事に高校生インターンが行事補助として参加した。 受講料：無料	非常勤学芸員 濱本 明海	午前 86 名 午後 53 名 (各回 20 名)	午前 21 名 (保護者 15 名) 午後 18 名 (保護者 10 名)
2	8月25日 (金) 10:00-12:00 14:00-16:00 9月24日 (日) 10:00-12:00 14:00-16:00 宇徳ビル8 階会議室	目指せ江の島・浮世絵でめぐる東海道の旅 講師：主任学芸員 桑山 童奈 概 要：江戸時代、江の島は「江の島詣で」や海辺の行楽地として賑わった。人々は、東海道各宿の名所旧跡をめぐりながら、江の島への旅を楽しんだ。浮世絵技術の発達により、各地の風景や情報を多くの人々が得ることが可能となり、旅への興味関心が増したことで、江の島などの行楽地へ旅に出る人も増えた。本講座では、浮世絵をよく観察することで、江戸時代の江の島への旅を追体験するとともに浮世絵技術のすごさにも触れた。 受講料：無料	非常勤学芸員 田辺 可奈	8月25日 午前 13 名 午後 8 名 9月24日 午前 12 名 午後 8 名 (各回 20 名)	8月25日 午前 10 名 午後 8 名 9月24日 午前 7 名 (保護者 6 名) 午後 3 名 (保護者 5 名)

(キ) 【建物見学会】 テーマにそって、当館及び近隣の建物をめぐらる。

a 「旧横浜正金銀行本店と横浜の銀行建築をめぐらる」

日 時：4月15日(土) 13:30-15:30

受講料：無料、ただしレクリエーション保険50円を徴収

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

定 員：25名

応募者：122名、 参加者：26名

概 要：横浜には、当館をはじめとして、多くの銀行建築物が現存している。それらのほとんどは現在では銀行とは別用途に転用されているが、現在でも横浜関内地区の歴史的町並みを形成している重要な建物である。本見学会では、国際貿易港横浜の歩みとともにあったこれらの建物をめぐらる。

行 程：①旧横浜正金銀行本店本館（神奈川県立歴史博物館）1904（明治37）年竣工

②旧川崎銀行横浜支店（損保ジャパン日本興亜馬車道ビル）1922（大正11）年竣工

③旧安田銀行横浜支店（東京芸術大学大学院）1929（昭和4）年竣工

④旧第一銀行横浜支店（ヨコハマ創造都市センター）1929（昭和4）年竣工

⑤旧第百銀行横浜支店（旧三菱銀行横浜支店）1934（昭和9）年竣工

⑥旧横浜銀行集会所（横浜銀行協会）1936（昭和11）年竣工

⑦旧三井銀行横浜支店（三井住友銀行横浜支店）1931（昭和6）年竣工

⑧旧露亜銀行横浜支店（ラ・バンク・ド・ロア）1921（大正10）年竣工

担 当：非常勤学芸員 田辺 可奈

b 「旧横浜正金銀行本店と横浜関内の近代建築をめぐらる—『エースのドーム』と横浜三塔をめぐらる」

日 時：8月21日(月) 13:30-15:45

受講料：無料、ただしレクリエーション保険50円を徴収

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

定 員：25名

応募者：120名、 参加者：22名

概 要：「エースのドーム」と名づけられた旧横浜正金銀行本店本館（当館建物）と横浜三塔をめぐらる見学会。特に今年創建100周年を迎える「ジャックの塔」の横浜市開港記念会館は、ボランティアガイド「ジャックサポーターズ」の案内で建物内部もじっくり見学した。

行 程：①神奈川県立歴史博物館（エースのドーム）

②横浜税関（クイーン）

③神奈川県庁本庁舎（キング）

④横浜市開港記念会館（ジャック）

担 当：非常勤事務補助員 豊田 倫子

c 「旧横浜正金銀行本店と横浜関内の関東大震災復興建築をめぐらる」

日 時：9月1日(金) 13:30-15:45

受講料：無料、ただしレクリエーション保険50円を徴収

講 師：主任学芸員 丹治 雄一

定 員：25名

応募者：92名、 参加者：22名

概 要：1923（大正12）年9月1日に発生した関東大震災（大正関東地震）で大きな被害を受けた旧横浜正金銀行本店本館（当館建物）と神奈川県庁舎や旧横浜商工奨励館（横浜情報文化センター）などの震災復興建築をめぐらる見学会。

行 程：①旧横浜正金銀行本店本館（神奈川県立歴史博物館）

②旧川崎銀行横浜支店（損保ジャパン日本興亜馬車道ビル）

③旧横浜銀行集会所（横浜銀行協会）

④横浜郵船ビル（日本郵船歴史博物館）

⑤神奈川県庁舎（神奈川県本庁舎）

- ⑥旧開港記念横浜会館（横浜市開港記念会館）
- ⑦横浜税関本館庁舎
- ⑧旧横浜商工奨励館（横浜情報文化センター）
- ⑨旧横浜地方裁判所（横浜地方裁判所、横浜家庭裁判所）
- ⑩旧横浜市外電話局（横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館）
- ⑪ホテルニューグランド本館
- ⑫山下公園

担 当：非常勤学芸員 泉山 花江

- (ク) 【博物館入門講座】当館で行っている様々な活動や学芸員の仕事について、講義・見学・体験を交えて学ぶことを通し、受講者の博物館利用がより豊かなものになるとともに、博物館に対する理解が深まることを目指す。当講座の受講が当館ボランティア応募の条件となる。

定 員：30名

応募者：44名

1日目：8月19日(土)13:30-16:00 (受講者37名)

概要等：「当館の概要」 講師：企画普及課長 永井 晋

講 義：「博物館活動と学芸員」 講師：企画普及課長 永井 晋

講 義：「学芸員の目」 講師：学芸員 武田 周一郎

2日目：8月26日(土)13:30-16:00 (受講者29名)

講 義：「学芸員の技」 講師：企画普及課長 永井 晋、主任学芸員 角田 拓朗

担 当：非常勤学芸員 泉山 花江

イ 子ども・青少年向け教育普及事業

(ア) ミュージアム・ミッション2017

内 容：夏休み期間に、近隣の博物館施設と連携して開催する子ども向け事業。当館を含む開催館で連絡会を作り実施。参加者は各博物館が定めるワークシート等の課題を達成しながら、博物館を巡るスタンプラリーを行う。この課題達成を通じて、改めて各館の特徴と存在を参加者に認識してもらうことを目指す。全館を回りきると賞品あり。

開催期間：7月22日(土)～8月31日(木)

開催館園：(6館) 大佛次郎記念館、神奈川近代文学館、JICA 横浜海外移住資料館、ニュースパーク(日本新聞博物館)、放送ライブラリー、当館

協力館園：横浜市立野毛山動物園

対 象：子ども(小学生～中学生)ただし、未就学児や大人でも希望者は参加可能とする。

参 加 者：全体1,268名(自由参加)

関連行事：a ミッション開催館での施設見学や展示解説

- ・日本新聞博物館ニュースパーク 展示解説(先着20名)

日 時：8月1日(火)13:30- (30分程度)

参加者：11名

- ・放送ライブラリー 展示解説(先着15名)

日 時：8月2日(水)13:30- (30分程度)

参加者：6名

- ・神奈川近代文学館：「角野栄子展」ギャラリートーク(先着60名)

日 時：8月24日(木)11:00- (30分程度)

参加者：15名

- ・JICA横浜海外移住資料館：館内ツアー(先着10名)

日 時：8月24日(木)14:00- (60分程度)

参加者：8名

b 横浜市立野毛山動物園裏側見学ツアー

見学施設：横浜市立野毛山動物園

対象者：当行事の全館賞達成者

参加費：無料

日時：9月16日(土)11:00-12:00 / 14:00-15:00

応募者：午前・午後あわせて58組107名

受講者：午前3組7名 / 午後4組13名

担当：非常勤学芸員 瀨本 明海

ウ 学校支援事業

(7) 展示見学学習等、小中高等学校及び特別支援学校の当館利用状況

平成28年6月から空調設備等改修工事のため休館しており、学校利用を一時休止している。

	平成29年度総計		平成28年度総計		平成27年度総計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数
4月			44	1,331	34	994
5月			88	2,710	96	2,875
6月					40	1,120
7月					26	416
8月					5	23
9月					16	375
10月					35	1,882
11月					35	2,019
12月					13	783
1月					29	1,333
2月					34	1,448
3月					26	431
合計	0	0	132	4,041	389	13,649

(イ) インターンシップ(就業体験・職場訪問等)への対応状況

生徒が在学中に、「勤労体験」「職業体験」を通じて、自主的に望ましい勤労観、職業観及び職業に関する知識や技術に触れ、自己の個性を理解して、進路選択ができる能力及び態度を身につけることを目的とする。

その内訳は、高校生を対象に、複数日にわたり、博物館という職場の役割や学芸員の仕事について紹介し、また、実際に資料を扱うことで、博物館の仕事をより具体的に知ることを目的とする就業体験的なものと、中学生・高校生を対象に「博物館の役割・仕事」「博物館で働く人」というテーマで座学と見学を中心とした職場訪問を実施している。

a 高校生のインターンシップ

就業体験的なもの(複数日にわたり博物館の業務・学芸員の仕事についての概要説明、施設の見学、就業体験等を実施。

県立麻溝台高等学校、鎌倉女子大学高等部、清心女子高等学校(通信制)、横浜清風高等学校
合計4校4名

日時：8月4日(金)、7日(月)、8日(火) 8:30-16:30

場所：宇徳ビル6階会議室・8階会議室

内容：8月4日(金)：ガイダンス、座学「博物館の役割・仕事」、県博建物見学。

8月7日(月)：子ども体験教室「だるまをつくろう」作業補助。

8月8日(火)：県博講座「月岡芳年と明治の浮世絵」講座の準備、受付等の手伝い、講座に参加。学芸員の教育普及の仕事に触れる。企画普及業務補助。

b 中学生・高校生の職場訪問 実績なし。

(ウ) 『歴史博物館の展示(常設)目録—学習指導要領・教科書との対象表—』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『歴史博物館の展示(常設)目録—学習指導要領・教科書との対照表—』(当館の常設展示資料と学習指導要領、教科書の主な単元項目が対照でき、さ

らに学芸員が適宜見学のポイントを記したもの)について、平成17年度で小・中・高等学校の3種類の校種別目録が揃った。さらに、平成24年度は、県立高等学校等で実施された日本史必修化の教科書である「郷土史かながわ」との対照表を作成し、全県立高等学校・特別支援学校へ配付した。平成26、27年度は、歴史博物館の展示(常設)目録の更新に合わせ見直しを図り、この資料を活用した学校独自のワークシート作りを推奨してきた。平成28年度から29年度は閉館中のため更新はなく、開館時に向けて『歴史博物館の展示(常設)目録ー学習指導要領・教科書との対照表ー』の見直しを図った。

(エ) 『常設展示品キャプション集』の更新

学校連携検討会議等での検討を受けて作成した『常設展示品キャプション』について、展示替えなどによる情報の更新を適宜行った。平成26年度に、特に頻繁に展示替えのあるコーナーをキャプション集の外枠に出すなどキャプション集の見直しを図り、より早く展示替えしたことをホームページ上で確認できるようにした。平成27年度は継続し実施してきた。休館中の平成28年度以降は、開館に向けて、新規常設展示キャプション集の作成準備を行った。

(オ) ワークシートの作成と活用

学校の見学学習の資料として作成した『ワークシート』を先生方に提供。博物館作成の『ワークシート』の活用と共に、先生方の博物館利用のねらいや児童・生徒の実態にあわせて独自の『ワークシート』作成の参考としての活用をお願いしている。

(カ) 教員向け研修会の実施

「教員のための博物館講座」の開催

日 時：7月28日(金) 10:00-16:30

会 場：宇徳ビル8階 会議室

受講者：35名

概 要：「教科書だけでは学べない神奈川の歴史～授業に活かせる素材の提供～」

今回の講座は、当館が実施している「出張講座」の中から、教科書だけでは実感することが難しい事柄について、「体験を通して学びを創る」教材化への試みの二つの事例の紹介である。

担 当：非常勤教育普及員 有村 泰治

講座1：『鎌倉大仏になってみよう！』… 地域文化財の教材化への試み

①講義：「仏像の見方」

②試着：「大仏になってみる」

鎌倉大仏が身にまとう服を実際に着て、手や足の組み方を体験することを通して、仏像に対する理解を深める。

講 師：学芸員 神野 祐太

講座2：『バーチャル東海道！』

・江戸時代に作られた絵地図「東海道分間絵図」の複製を作成

・東海道の旅の疑似体験を通して、当時の文化についての理解を深める。

①出張授業「バーチャル東海道」… 博物館資料の教材化への試み

・館蔵資料『東海道分間絵図』を使った出張授業

・館蔵資料を出張授業で使う際の問題点

②『東海道分間絵図』をつくる

講 師：専門員 古宮 雅明

(キ) 出張講座

平成 28 年 6 月から空調設備等改修工事のため休館することになり、その間の学校連携の一環として、当館学芸員が講師となり要望のあった小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に出張して講義をした。

日付	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年・ 学級・ 授業時限・ 受講者数
4 月 19 日 (水)	横浜市立 南戸塚 小学校	考古学の魅 力	先史時代を中心とする考古学の魅力を、主に神奈川県内や身近な事例を交えて紹介し、「考古学の魅力」について伝えた。	学芸員 千葉 毅	6 学年 全学級 3 時限 99 名
5 月 2 日 (火)	湘南白百合 学園中学校	博物館・学 芸員の仕事	博物館という施設とそこで資料に関わるさまざまな仕事をしている学芸員について、自身の体験に基づきわかりやすく解説した。	主任学芸員 丹治 雄一	2 学年 全学級 1.5 時限 172 名
5 月 15 日 (月)	桐蔭学園 中学校	欧米人の見 た幕末・明 治の日本	開港後、日本を訪れた外国人にとって、日本人の風俗や習慣は興味深いものでした。多くの外国人が、見聞記を記しています。それらの記録をひもとき、「礼儀正しさ」、「勤勉性」、「簡素と豊かさ」などをテーマに、日本人の特性について、児童・生徒ともに考えた。	主任学芸員 嶋村 元宏	2 学年 全学級 2 時限 100 名
5 月 18 日 (木)	フェリス 女学院 中学校	考古学の魅 力	先史時代を中心とする考古学の魅力を、主に神奈川県内や身近な事例を交えて紹介し、「考古学の魅力」について伝えた。	学芸員 千葉 毅	2 学年 4 学級 4 時限 183 名
5 月 26 日 (金)	横浜市立 南が丘 中学校	博物館・学 芸員の仕事	博物館という施設とそこで資料に関わるさまざまな仕事をしている学芸員について、クイズ形式で関連資料の取扱いも含め、わかりやすく解説した。	主任学芸員 角田 拓朗	全学年 全学級 1.5 時限 350 名
5 月 31 日 (水)	横浜女学院 中学校	鎌倉の仏像 案内	鎌倉市内のおすすめの仏像とそれをめぐるコースを紹介した。鎌倉には奈良や京都と同じように仏像がたくさん伝えられており、仏像の見方から歴史的背景まで言及することで、より深く鎌倉を知ってもらった。	学芸員 神野 祐太	2 学年 全学級 1 時限 106 名
6 月 12 日 (月)	清川村立 宮ヶ瀬 小・中学校	異国人が旅 した幕末維 新期のかな がわ	当館所蔵の「横浜外国人遊歩区域図」は、1859 年の横浜開港後に来日した外国人が実際に神奈川県域を旅行したルートも記した実用性の高い外国人用の地図です。この資料と、外国人を魅了した県内の名所・旧跡を写した古写真や当時の日記などをつうじて、幕末維新期の「かながわ」について理解を含めます。	主任学芸員 嶋村 元宏	小 3～6 中 2・3 全学級 1 時限 10 名

日時	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年・ 学級・ 授業時限・ 受講者数
6月13日 (火)	寒川町立 一之宮 小学校	鎌倉大仏の ひみつ	鎌倉大仏に関する講座。県内で最も有名な仏像にも、たくさんのひみつがある。いつ、誰が、どうやって造ったのかといったような基本的なところから、手の組み方、足の組み方、服の着方など、形のうえで注目すべき点も紹介し、大仏の魅力を伝えた。	学芸員 神野 祐太	6 学年 全学級 2 時限 59 名
6月14日 (水)	横浜市立 戸塚 高等学校	《文化》の 衝突	異なる文化的背景を持った者たちが出会うことによって生じる摩擦や対立について、生麦事件を題材として検討します。これにより、対立や紛争のない平和的な世界をいかに創るかという問題を児童・生徒とともに考えます。	主任学芸員 嶋村 元宏	3 学年 1 学級+選 択 2 時限 34 名
6月21日 (水)	横浜市立 相沢 小学校	鎌倉の歴史	神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所です。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明します。	臨時学芸員 渡邊 浩貴	6 学年 2 学級 2 時限 69 名
6月22日 (木)	神奈川県立 希望ヶ丘 高等学校 (定時制)	蒙古襲来	鎌倉時代中期、日本はモンゴル帝国(元王朝)となぜ戦争に発展したのかを、13世紀東アジアの政治情勢と、日本・中国・モンゴルの文化の違いから授業した。	企画普及 課長 永井 晋	全学年全学 級より選択 1 時限 12 名
6月22日 (木)	川崎市立 今井 小学校	室町絵画の 魅力	室町時代の山水や花鳥の絵に、室町文化のすがたを探る。何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深めた。	学芸員 橋本 遼太	6 学年 2 学級×2 2 時限 151 名
6月23日 (金)	山北町立 山北 中学校	足柄上郡山 北の歴史	神奈川県立歴史博物館では山北中学校からお預かりしている中世の壺があります。この他にも、兜や絵巻物など山北にはたくさんの作品が伝わっています。どのようにしてそれら作品が伝わったのか画像を見ながらお話しします。	臨時学芸員 渡邊 浩貴	全学年 全学級 2 時限 82 名
6月27日 (火)	厚木市立 鳶尾 小学校	鎌倉の歴史	神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所です。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明します。	臨時学芸員 渡邊 浩貴	6 学年 2 学級 2 時限 58 名

日時	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年・ 学級・ 授業時限・ 受講者数
6月29日 (木)	南足柄市立 福沢 小学校	鎌倉の歴史	神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所である。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明した。	企画普及 課長 永井 晋	6 学年 全学級 1.5 時限 82 名
7月3日 (月)	横浜女学院 高等学校	地図や空中 写真を読む	地図や空中写真を用いて学校周辺における景観の変化について紹介した。	学芸員 武田 周一 郎	1 学年 全学級 1 時限 146 名
7月6日 (木)	茅ヶ崎市立 東海岸 小学校	鎌倉の歴史	神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所です。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明します。	臨時学芸員 渡邊 浩貴	6 学年 4 学級 2 時限 120 名
7月10日 (月)	神奈川県立 相模原中央 支援学校	鎌倉大仏の ひみつ	鎌倉大仏に関する講座。県内で最も有名な仏像にも、たくさんのひみつがある。いつ、誰が、どうやって造ったのかといったような基本的なところから、手の組み方、足の組み方、服の着方など、形のうえで注目すべき点も紹介し、大仏の魅力を伝えた。	学芸員 神野 祐太	3 学年 全学級 2 時限 36 名
7月10日 (月)	横須賀市立 野比小学校	絵図で見る 江戸時代	パワーポイントで当館所蔵の日本図・関東図・武蔵国相模国絵図などを見ながら、江戸時代の特徴について話をした。江戸時代三浦半島が江戸防衛の拠点であったことにふれ、地域の歴史を考えた。	非常勤学芸員 根本 佐智 子	6 学年 3 学級 3 時限 87 名
7月11日 (火)	神奈川県立 相模原中央 支援学校 (知的)	バーチャル 「東海道」	元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をPC画面上に再現し、江戸時代東海道の旅を追体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がPCを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	2 学年 全学級 1 時限 11 名
7月11日 (火)	神奈川県立 相模原中央 支援学校 (肢体)	バーチャル 「東海道」	元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をPC画面上に再現し、江戸時代東海道の旅を追体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がPCを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	1~3 学年 全学級 1 時限 3 名

日時	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年・ 学級・ 授業時限・ 受講者数
7月14日 (金)	相模原市立 南大野 小学校	バーチャル 「東海道」	元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をPC画面上に再現し、江戸時代東海道の旅を追体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がPCを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	6 学年 3 学級 3 時限 90 名
7月21日 (金)	聖セシリア 女子中学校	鎌倉の歴史	神奈川県にある鎌倉は、武家政権が発祥した場所です。関東にできたこの政権がどのような特徴を持っていたのか、教科書にも取り上げられているような資料(画像等)を使いながらわかりやすく説明します。	臨時学芸員 渡邊 浩貴	全学年全学 級より選択 2 時限 10 名
9月7日 (木)	横浜女学院 中学校	地図や空中 写真を読む	地図や空中写真を用いて学校周辺における景観の変化について紹介した。	学芸員 武田 周一 郎	1 学年 全学級 1 時限 108 名
9月15日 (金)	神奈川県立 秦野曾屋 高等学校	ペリーから の贈り物	パワーポイントを使用し、ペリーが將軍をはじめ幕府高官へ贈った蒸気車模型や電信機などを手がかりに、西洋で発明された製品がその後の日本に与えた影響を考えた。ペリーは、軍事力というハードパワーだけでなく、文化力というソフトパワーを使い、通商条約の締結を目指して交渉したことに注目した。	主任学芸員 嶋村 元宏	3 学年 4 学級 3 時限 105 名
10月5日 (木)	川崎市立 東高津 小学校	東京オリン ピックと神 奈川	1964(昭和39)年に開催された東京オリンピックを通じて、高度経済成長期の神奈川県について紹介した。	学芸員 武田 周一 郎	6 学年 5 学級 3 時限 185 名
10月12日 (木)	横浜市立 芹が谷南 小学校	バーチャル 「東海道」	元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をPC画面上に再現し、江戸時代東海道の旅を追体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がPCを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	6 学年 全学級 2 時限 50 名

日時	学校名	講座名	概要	講師名	対象学年・ 学級・ 授業時限・ 受講者数
10月16日 (月)	藤沢市立 滝の沢 小学校	横浜はじめて物語	1859年7月、神奈川(横浜)が開港すると貿易を目的とした欧米商人が横浜に居留し始めた。彼らの生活習慣は、日本の文化にも多大なる影響を与え、日本で初めての物事も多く生まれた。いち早く異文化交流の舞台となった横浜ならではの歴史を、「はじめて」をキーワードに、パワーポイントで紹介した。	主任学芸員 嶋村 元宏	6学年 3学級 3時限 115名
10月21日 (土)	川崎市立 中原中学校	絵図で見る 江戸時代	パワーポイントで当館所蔵の日本図・関東図・武蔵国相模国絵図などを見ながら、江戸時代の特徴について話をした。小杉村絵図や小杉御殿の絵図と現在の写真を見ながら地域の歴史を考えた。(実際に史跡を見て歩く計画であったが大雨のため中止)	非常勤学芸員 根本 佐智子	全学年全学級より選択 2時限 30名
10月25日 (水)	横浜市立 矢向小学校	室町絵画の 魅力	室町時代の山水や花鳥の絵に、室町文化のすがたを探る。何がどのように描かれているのか。誰が描き、どういった人々が鑑賞したのか。ともに考えながら、室町文化への理解を深めた。	学芸員 橋本 遼太	6学年 3学級 3時限 116名
10月30日 (月)	厚木市立 依知南 小学校	浮世絵を知る	江戸時代の出版物である浮世絵版画について、その制作方法や神奈川県内の風景を描いた作品をパワーポイントで紹介した。その後、江戸時代と同じ技法で作られた複製版浮世絵で彫や摺のワザを実見した。	主任学芸員 桑山 童奈	6学年 3学級 3時限 87名
10月31日 (火)	川崎市立 幸町小学校	バーチャル 「東海道」	元禄年間に刊行された東海道絵図『東海道分間絵図』をPC画面上に再現し、江戸時代東海道の旅を体験するプログラム。前半では東海道と当時の旅の様子を概略説明、後半は児童生徒一人一人がPCを操作して絵図上を自由に行き来し、楽しみながら東海道と旅の様子を学んだ。	専門員 古宮 雅明	6学年 3学級 3時限 83名

(6) ミュージアムコンサート

ア 「クラシック・ヨコハマ2017 ミュージアムコンサート in 県立歴史博物館」

日 時：11月1日(水) 12:00-12:45

※10月31日(火)～11月3日(金・祝)の馬車道まつりにあわせて開催

内 容：「クラシック・ヨコハマ2017」の一環として実施。

横浜市民広間演奏会によるサクソ4重奏を実施。

- ・イン・ザ・ムード ジョー・ガーランド作曲 三澤慶編曲
- ・日本の四季メドレー 野村秀樹編曲
- ・oriental wind 久石譲作曲
- ・歌謡曲メドレー

雪国～長崎は今日も雨だった～浪花節だよ人生は

(「雪国」吉 幾三作曲 石川 亮太編曲)

(「長崎は今日も雨だった」彩木雅夫作曲 三澤慶編曲)

(「浪花節だよ人生は」四方章人作曲 高橋宏樹編曲)

・『ウエストサイド物語』より、“マリア” “アメリカ” バーンスタイン作曲

・『サウンド・オブ・ミュージック』より“私のお気に入り” ロジャース作曲 真島俊夫編曲

・情熱大陸 葉加瀬太郎作曲 浅利 真編曲

演奏者：「横浜市民広間演奏会」

木藤 良朝子 (ソプラノサクソ)

須々木 由子 (アルトサクソ)

尾形 一樹 (テナーサクソ)

渡辺 定路 (バリトンサクソ)

会 場：神奈川県立歴史博物館 馬車道口玄関 (演奏者：アーチ内階段部分、観客：アーチ外)

観客数：100名 ※座席を20席用意。

担 当：非常勤学芸員 田辺 可奈

(7) ミュージアムライブラリー

県民の学習活動を支援する場として、1階フリーゾーンにミュージアムライブラリーを設置している。図書、情報システム(デジタルミュージアム)などがあり、展示を中心とした神奈川の歴史や文化について学ぶことが出来る。なお、平成29年度は、改修工事のため4月から利用を休止していたため利用者はなかった。

ア 閲覧用座席数：19席、来館者用情報システム端末：2台

イ 利用者数：実績なし。

(8) 普及印刷物

ア 図録

・なし(休館中)

イ 広報印刷物

・「催し物のご案内2018」

・県博50周年アーカイブポスター・チラシ第1弾及び第2弾

・「神奈川県博開館51周年記念 つなぐ、神奈川県博—Collection to Connection—」ポスター・チラシ

・ミュージアム・ミッション2017 チラシ

ウ 神奈川県立歴史博物館だより

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.23 No.1 通巻205号 平成29年6月22日 (2,000部)

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.23 No.2 通巻206号 平成29年10月6日 (2,000部)

『神奈川県立歴史博物館だより』VOL.23 No.3 通巻207号 平成30年2月22日 (2,000部)

(9) ボランティアの活動

平成9年度から登録を開始した博物館ボランティアは、平成28年6月から休館していることから平成29年度に新たな募集は行わなかった。平成30年3月31日現在の登録者は79名である。その内訳は展示解説ボランティアが71名、行事補助ボランティアが8名である。活動期間を5年間としている。

ア 活動状況及び実績

平成29年度は休館していたため、展示解説ボランティア・行事補助ボランティアともに活動を休止していた。ボランティア会は幹事会(各曜日ごとの班から2名選出)を組織しており、今年度は年4回、館側の担当者と様々な調整や、情報の交換を行なった(開館中は毎月実施)。なお、開館中にボランティア会が年3回編集・発行していた『ボランティアニュース』は、休刊した。

(ア) 活動日数及び人数

実績なし。

(イ) 年代別・男女別人数等

年代	男	女	計
20	0	0	0
30	1	1	2
40	0	1	1
50	1	10	11
60	28	21	49
70	12	4	16
合計	42	37	79
平均年齢	67.0	61.5	64.4

(ウ) 曜日別ボランティア数(展示解説ボランティアのみ)

火曜日:13名、水曜日:12名、木曜日:10名、金曜日:13名、土曜日:12名、日曜日:11名 計71名

(エ) 行事補助ボランティア 8名

イ 専門研修

新規登録ボランティアを対象に、展示解説に必要な当館の常設展示に関する知識や、資料の保存、教育普及活動について、その内容を知ってもらうために実施するが、平成29年度は新規ボランティアを募集しなかったため実施していない。

ウ その他の研修

(ア) 特別展研修

特別展の展示解説に資する研修として、解説に必要な図録や資料を配布するとともに、展示された資料について担当学芸員から解説の実地研修を行うものだが、平成29年度は休館していたため実施していない。

(イ) フォローアップ研修

常設展示解説等のフォローアップとして、個々のテーマで研修講座を実施した。

実施日	テーマ
4月14日(金)・15日(土)	中世絵画を「見る」ポイントー絵巻作例を中心に
7月14日(金)・15日(土)	神奈川県博の50年
9月13日(水)・16日(土)	玉葉にみる以仁王事件

(10) 博物館実習生の受け入れ

平成29年度は休館のため実績なし。例年では、「神奈川県立歴史博物館 博物館実習生受け入れ要領」に基づき、見学実習と実務実習を受け入れている。

ア 見学実習

平成29年度は休館のため実績なし。例年では、当館の概要(歴史・施設・組織・展示や事業概要など)について説明した後、展示室、バックヤード等の見学を行う。

イ 実務実習

平成29年度は休館のため実績なし。例年では、博物館運営に関わる業務及び教育普及事業についてと、学芸部の資料の取り扱いや整理の方法などについて学ぶ7日間としている。

6 資料

(1) 条例・規則

ア 神奈川県立の博物館条例

〔 昭和 41 年 10 月 7 日
条例第 43 号 〕

最終改正 平成 28 年 10 月 21 日条例第 77 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、神奈川県立の博物館の設置、管理等に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第 2 条 博物館法(昭和 26 年法律第 285 号)に基づき、次のとおり神奈川県立の博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

名 称	位 置	目 的
神奈川県立歴史博物館	横浜市中区南仲通 5 丁目 60 番地	神奈川の文化及び歴史に関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。
神奈川県立生命の星・地球博物館	小田原市入生田 499 番地	地球及び生命の営みに関する資料の収集、保管及び展示並びにこれに関する調査研究、情報提供等を行い、県民の学習活動を支援すること。

(職員)

第 3 条 博物館に、事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(観覧料の納付)

第 4 条 博物館に展示している博物館資料を観覧する者(以下「観覧者」という。)は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。ただし、公開の施設に展示している博物館資料の観覧については、この限りでない。

2 前項本文の規定にかかわらず、特別な企画の展覧会を開催する場合の観覧料は、神奈川県教育委員会(以下「教育委員会」という。)がその都度定めることができる。

3 教育委員会は、第 1 項本文及び前項に規定する観覧料を納めた者に観覧券を交付するものとする。

4 観覧者(別表備考 2 に規定する者を除く。)は、入館する際に、前項に規定する観覧券又はこれに代わるものとして教育委員会が認めたものを提出し、又は提示しなければならない。

(観覧料の減免)

第 5 条 前条第 1 項本文及び第 2 項の規定にかかわらず、教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者については、観覧料を減免することができる。

(1) 教育委員会が開催する行事に参加する者

(2) 教育課程に基づく教育活動として入館する高校生(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号。別表備考において「法」という。)第 1 条に規定する高等学校及び中等教育学校の後期課程並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者という。別表において同じ。)並びに児童及び生徒の引率者

(3) その他教育委員会が適当と認めた者

(観覧料の不還付)

第 6 条 既に納付された観覧料は、還付しない。ただし、教育委員会が災害その他特別の事情により還付するのを適当と認めたときは、この限りでない。

(資料の特別利用)

第 7 条 博物館資料を学術上の研究のため特に利用しようとする者は、教育委員会の承認を受けなければならない。

(利用の制限)

第 8 条 教育委員会は、博物館の利用者が次の各号のいずれかに該当する場合には、その利用を制限することができる。

(1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

(2) 他の利用者に著しく迷惑をかけるおそれがあると認めるとき。

(3) 施設、博物館資料等を損傷するおそれがあると認めるとき。

(4) その他教育委員会が必要と認めるとき。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理等に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して6月をこえない範囲内で教育委員会規則で定める日から施行する。（昭和41年11月18日教育委員会規則第8号で、同41年11月21日から施行。ただし、第4条から第9条までの規定の施行期日にあつては昭和42年3月22日とし、第10条の規定の施行期日にあつては昭和42年4月1日とする。）

(略)

附 則(平成28年10月21日条例第77号)

この条例は、平成28年12月1日から施行する。

別表(第4条関係)(抄)

区 分		個 人		20人以上の団体	
神奈川県立歴史博物館	20歳以上65歳未満の者 (学生及び高校生を除く。)	1人につき	300円	1人につき	250円
	20歳未満の者(高校生を除く。)	同	200円	同	150円
	学生(65歳以上の者を除く。)	同	200円	同	150円
	65歳以上の者 高 校 生	同	100円	同	100円

備考 1 学生とは、法第1条に規定する大学及び高等専門学校、法第124条に規定する専修学校並びに法第134条第1項に規定する各種学校に在学する者をいう。

2 学齢に達しない者並びに法第1条に規定する小学校、中学校、義務教育学校、中等教育学校の前期課程及び特別支援学校並びにこれらに準ずる教育施設に在学する者は、無料とする。

イ 神奈川県立の博物館組織規則

〔昭和41年11月18日
教育委員会規則第10号〕

最終改正 平成18年3月31日教育委員会規則第13号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の組織に関し必要な事項を定めるものとする。

(部等の設置)

第2条 神奈川県立の博物館に、次の部及び課を置く。

管理課

企画情報部

企画普及課

情報資料課

学芸部

(管理課の事務)

第3条 管理課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 公印に関する事。
- (2) 文書の收受、発送、保存、閲覧等に関する事。
- (3) 個人情報の開示、訂正、利用停止等に関する事。
- (4) 人事に関する事。
- (5) 財産の管理及び館内の秩序の維持に関する事。
- (6) 予算の経理に関する事。
- (7) 観覧料の徴収に関する事。
- (8) 物品の調達及び処分に関する事。
- (9) 寄贈品の受納並びに寄託品の受納及び返納に関する事。
- (10) その他他部課の主管に属しない事。

第4条 削除

(企画普及課の事務)

第5条 企画普及課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館活動の企画及び調整に関する事。
- (2) 博物館活動の普及及び広報に関する事。
- (3) 博物館活動に関する講演会、講習会、研究会等の開催に関する事。
- (4) 他の博物館その他教育、学術又は文化に関する施設、団体等との連絡、協力及び情報の交換に関する事。

(情報資料課の事務)

第6条 神奈川県立歴史博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 人文科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの運用に関すること。

2 神奈川県立生命の星・地球博物館の情報資料課においては、次の事務を分掌する。

- (1) 自然科学等に関する図書等の収集、整理、保管及び閲覧に関すること。
- (2) 博物館情報システムの総合的企画及び調整並びに運用に関すること。

(学芸部の事務)

第7条 学芸部においては、次の事務を分掌する。

- (1) 博物館資料の収集、製作、整理、保管、展示、解説及び指導に関すること。
- (2) 博物館資料の専門的及び技術的な調査研究に関すること。

(委任)

第8条 この規則の施行に関し必要な事項は、神奈川県教育委員会教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。

(略)

附 則(平成18年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

ウ 神奈川県立の博物館の利用等に関する規則

〔 昭和41年11月18日
教育委員会規則第9号 〕

最終改正 平成28年11月29日教育委員会規則第23号

(趣旨)

第1条 この規則は、神奈川県立の博物館の利用等に関し必要な事項を定めるものとする。

(権限の委任)

第2条 次に掲げる神奈川県教育委員会の権限は、神奈川県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)に委任する。

- (1) 神奈川県立の博物館条例(昭和41年神奈川県条例第43号。以下「条例」という。)第4条第2項の規定により観覧料を定めること。
- (2) 条例第4条第3項の規定により観覧券を交付すること。
- (3) 条例第4条第4項の規定により観覧券に代わるものを認めること。
- (4) 条例第5条の規定により観覧料を減免すること。
- (5) 条例第6条ただし書の規定により観覧料の還付を認めること。
- (6) 条例第7条の規定により利用を承認すること。
- (7) 条例第8条の規定により利用を制限すること。

(休館日等)

第3条 神奈川県立歴史博物館及び神奈川県立生命の星・地球博物館(以下「博物館」という。)の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「国民の祝日等」という。)に当たるときを除く。)
- (2) 国民の祝日等の翌日(土曜日、日曜日又は国民の祝日等に当たるときを除く。)
- (3) 12月28日から翌年の1月4日まで
- (4) その他教育長が定める日

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、臨時に博物館を開館することができる。

(開館時間等)

第4条 開館時間は、次のとおりとする。

名 称	開 館 時 間
神奈川県立歴史博物館	午前9時30分から午後5時まで。ただし、午後4時30分以降は、入館することができない。
神奈川県立生命の星・地球博物館	午前9時から午後4時30分まで。ただし、午後4時以降は、入館することができない。

2 前項の規定にかかわらず、教育長は、必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(観覧券の様式)

第5条 条例第4条第3項に規定する観覧券は、神奈川県立歴史博物館にあつては第1号様式とし、神奈川県立生命の星・地球博物館にあつては第2号様式とする。

(観覧料の減免申請)

第6条 観覧料の減免を受けようとする者は、あらかじめ、観覧料減免申請書を教育長に提出し、観覧料減免承認書の交付を受けなければならない。

(観覧料の還付申請)

第7条 観覧料の還付を受けようとする者は、観覧料還付申請書に観覧券を添えて教育長に提出し、観覧料還付承認書の交付を受けなければならない。

(資料の特別利用)

第8条 条例第7条の規定により博物館資料の特別利用の承認を受けようとする者は、特別利用承認申請書を教育長に提出し、特別利用承認書の交付を受けなければならない。

(利用の方法)

第9条 博物館を利用する者は、博物館の管理上必要な事項を守り、職員の指示に従わなければならない。

(資料の館外貸出し)

第10条 次に掲げるものは、教育長の承認を受けて博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 国立の博物館、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条の規定により文部科学大臣の指定した博物館に相当する施設
- (2) 社会教育法（昭和24年法律第207号）第21条に規定する公民館
- (3) 国立の図書館及び図書館法（昭和25年法律第118号）第2条第1項に規定する図書館
- (4) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第1条に規定する学校
- (5) その他教育長が適当と認めるもの

2 前項の規定による承認を受けようとするものは、館外貸出承認申請書を教育長に提出し、館外貸出承認書の交付を受けなければならない。

(館外貸出しの期間)

第11条 博物館資料の館外貸出しの期間は、30日以内とする。ただし、教育長は、特に必要があると認めるときは、これを延長することができる。

2 前項の館外貸出しの期間は、博物館が当該博物館資料を引き渡した日から起算してその返還を受ける日までの日数により算定するものとする。

3 教育長は、館務の都合により必要があるときは、博物館資料の館外貸出しの期間中であつても、当該博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しをした資料の利用方法)

第12条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所で、利用してはならない。

(資料滅失等の届出)

第13条 博物館資料の館外貸出しを受けたものは、当該博物館資料を滅失し、又は損傷したときは、直ちに資料滅失（損傷）届出書を教育長に提出しなければならない。

(寄託を受けた資料の利用の制限)

第14条 寄託を受けた博物館資料の館外展示及び館外貸出しは、寄託者の承諾がある場合のほかは、行なうことができない。

(委任)

第15条 この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和41年11月21日から施行する。ただし、第2条から第9条までの規定は、昭和42年3月22日から施行する。

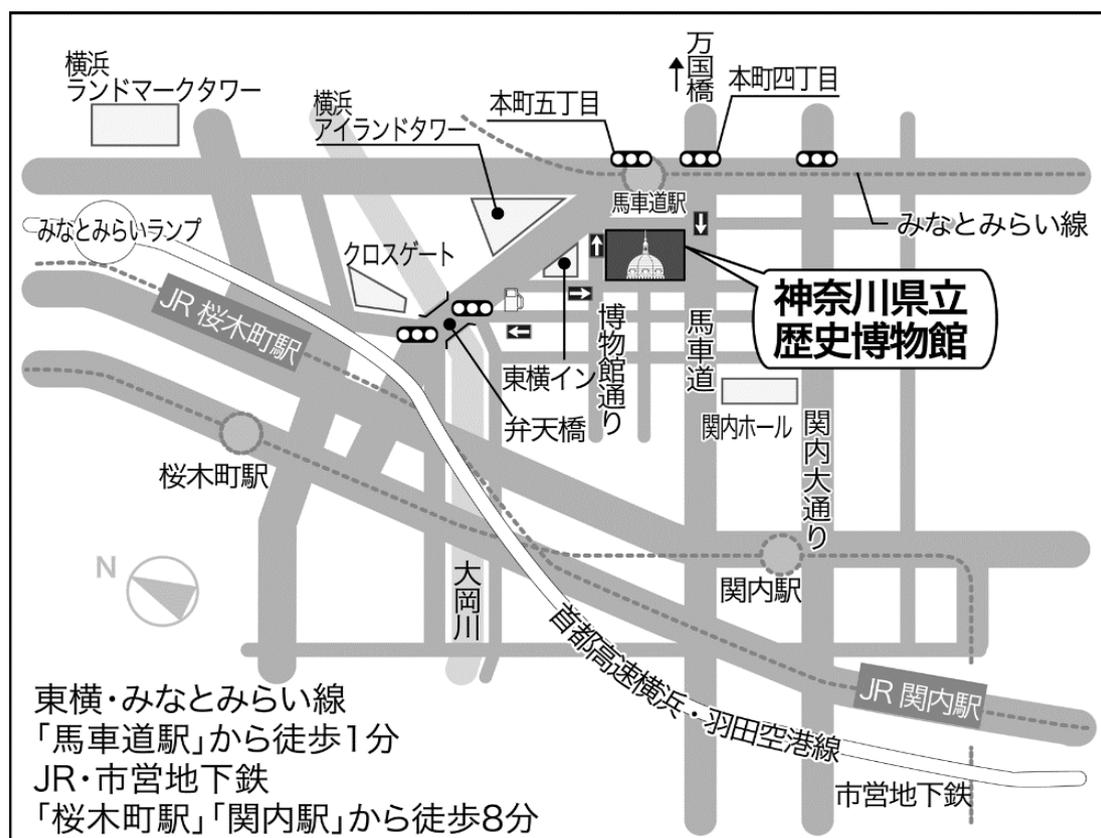
(略)

附 則（平成28年11月29日教育委員会規則第23号）

この規則は、平成28年12月1日から施行する。第1号様式（第5条関係）（用紙 縦7センチメートル 横18センチメートル）第2号様式（第5条関係）（用紙 縦8.5センチメートル 横5.8センチメートル）

(2) 利用案内

- ア 名称 : 神奈川県立歴史博物館 (Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History)
- イ 所在地 : 横浜市中区南仲通 5-60 〒231-0006
- ウ 電話 : 045-201-0926(代表)
- エ F A X : 045-201-7364
- オ ホームページ : <http://ch.kanagawamuseum.jp/>
- カ 交通 : みなとみらい線(東急東横線より直通)「馬車道」駅5番出口より徒歩1分、JR 京浜東北・根岸線、横浜市営地下鉄ブルーライン「桜木町」駅または「関内」駅より徒歩8分
- キ 休館日 : 月曜日(ただし、祝日の場合は開館)、資料整理休館日、年末年始
- ク 観覧料 : ○常設展
- ・20歳以上(学生を除く) : 300円(250円) ()内は20名以上の団体
 - ・20歳未満及び学生 : 200円(150円)
 - ・高校生及び65歳以上 : 100円(100円)
 - ・中学生以下及び障害者手帳をお持ちの方は無料
- 特別展
- ・常設展とは別料金となり、金額は展示ごとに別途定める。
- コレクション展
- ・無料
- ケ 団体見学 : 事前にご連絡ください。



神奈川県立歴史博物館年報 平成 29 年度

2018 年 11 月 6 日

編集・発行 〒231-0006

横浜市中区南仲通 5-60

神奈川県立歴史博物館

本書の無断転載を禁ず

ISSN 1346-6127

Kanagawa Kenritsu Rekishi Hakubutsu-kan

Nen-po

Annual Report of the Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

(2017.4~2018.3)

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, JAPAN